

東日本大震災の透析患者への
影響と震災の備えに関する調査
—岩手、宮城、福島に居住する患者調査から—

透析医療研究会

2013年12月

はじめに

東日本大震災は、東北地方の太平洋沿岸の地域に住む人々に甚大な被害をもたらしました。その被害は、地震の揺れによる直接的な被害だけでなく、地震による津波の被害、東京電力福島第1原子力発電所の事故による放射能汚染という3つの被害が重複したことにより、より一層深刻なものとなりました。

被害の内容も、人への被害だけでなく、居住する家屋への被害、漁業・農業・商業・工業など生産・流通・消費に関係する設備への被害、教育・医療・福祉などの公共性の高い施設への被害、ガス、水道、電気などのライフラインへの被害、道路・鉄道・空港などの交通網への被害、液状化や地盤沈下による被害など、社会全体に対して広範囲に及ぶ被害をもたらしました。

地震による人的被害も、建物倒壊による圧死、津波による溺死など地震による直接的な被害だけでなく、避難生活が長期化することに伴う健康悪化、さらに、地震や地震による津波によって直接的に身体に被害を被らなくても、安全を脅かされたり、恐ろしい体験をしたりすることで、心理的な問題や不応の問題を起こす、いわゆる心的外傷後ストレス障害といった病気に罹患した人も多くいらっしゃいました。

このように、東日本大震災は人的、物的にも未曾有の被害をもたらしましたが、災害に対して対処能力が低い高齢者、疾患罹患患者など災害弱者といわれる人の場合には、一般の人以上に被害が深刻であると考えられます。腎透析患者は、基礎的な疾患によって腎臓の機能が弱まり、血液中の老廃物を自分の腎臓で除去することができなくなった人たちです。すなわち、震災に直面した場合の透析や疾患の自己管理への特別な支援が必要な災害弱者です。しかし、震災から2年が経過した現在においても、透析患者が東日本大震災によってどのような影響をもたらされたのかについては、十分な解明が行われておりません。それ以前に起きた阪神淡路大震災や新潟県中越地震においても、地震が透析患者に及ぼした影響については、きちんとした解明が行われておりません。

当透析医療研究会は、1986年から全国腎臓病協議会からの依頼を受け、日本透析医会と共同して、全国の腎透析患者の調査を5年間隔で実施してきております。この全国調査は、医学的な所見だけでなく、生活実態の解明に比重を置くとともに、5年ごとに調査を実施することで、その時系列的な変化をも明らかにすることを目的としております。このように、透析患者の生活と健康を継続的に調査してきた研究グループとして、東日本大震災の透析患者への影響を量的にかつ妥当な方法で評価することが責務であると考え、本調査を企画、実施することとしました。

なお、本調査は、日本透析医会から助成を受けております。加えて、震災の復興途上の中にもかかわらず、岩手、宮城、福島の3県の腎臓病協議会と会員の皆様には本調査に全面的に協力いただきました。このようなご協力がなければ、本調査は実現できませんでした。心から、感謝いたします。

最後に、本調査の結果が、今だ震災の影響を受けている透析患者の皆様の現状の改善とともに、今後起こるであろう震災が透析患者にもたらす影響を最小限に食い止めることの対策の推進に少しでも貢献いたすとすれば幸甚です。

透析医療研究会

調 査 組 織

本調査は、社団法人全国腎臓病患者協議会、公益社団法人日本透析医会、一般財団法人統計研究会で組織される透析医療研究会によって実施された。構成メンバーは以下の通りである。

委員長	杉 澤 秀 博	桜美林大学大学院教授
委 員	浅 川 達 人	明治学院大学社会学部教授
	熊 谷 たまき	順天堂大学医療看護学部准教授
	清 水 由美子	人間科学総合大学保健医療学部看護学科講師
	大 平 整 爾	公益社団法人日本透析医会理事 医療法人社団東桑会 札幌北クリニック院長
	杉 崎 弘 章	公益社団法人日本透析医会専務理事 医療法人社団心施会理事長 (八王子東町クリニック院長)
	篠 田 俊 雄	公益社団法人日本透析医会常務理事 社団医療法人河北医療財団河北総合病院透析センター長
	俣 野 公 利	社団法人全国腎臓病協議会理事・事務局長
	浅 野 兵 庫	社団法人全国腎臓病協議会理事
事務局	荒 金 由布子	一般財団法人統計研究会

なお、本調査の実施にあたり、公益社団法人日本透析医会からの助成を受けた。心から感謝申し上げます。

目 次

I 調査の目的	1
II 方法	3
1. 対象者と調査方法	3
2. 調査項目	3
3. 分析枠組み	4
III 結果	5
1. 属性	5
2. 震災の経験	6
1) 健康への影響	
2) 家族への影響	
3) 心理への影響	
4) 物理的影響	
5) 医療受診への影響	
6) 生活への影響	
3. 生活	15
1) 社会的支援	
2) 世帯構成	
3) 居住地	
4) 就業	
5) 住居	
6) 収入	
4. 健康	24
1) 健康度自己評価	
2) 生活の自立度	
3) 精神健康	
4) 心的外傷後ストレス障害	

5. 震災への備え	34
1) 透析中の震災に対する対応	
2) 震災時にいつも利用している医療機関が利用できなくなった場合の対応	
3) 通常利用している透析医療機関が利用できなくなったときの代替医療機関のあて	
4) 震災時に利用可能な医療機関を探す方法の認知	
5) 震災時に透析医療機関が利用できない場合の健康管理の認知	
6) 震災時にケガなどで透析医療機関に通院できない場合の介助	
7) 外出時におけるダイアライザーの種類や血流量が記載された手帳の携帯	
8) 医療機関からの働きかけと震災への備え	
IV 提言	39
1. 全体	39
1) 震災の継続的な影響に対する早期の対応策の必要性	
2) 震災への準備のためにすべきこと	
2. 患者の立場から	40
1) 災害時に受けるストレス	
2) 患者自身の災害対策	
3) 患者によるピアサポート	
3. 医師の立場から	42
1) PTSD（外傷後ストレス障害）の合併について	
2) 震災への備えについて	
V 単純集計	45

I 調査の目的

東日本大震災によって、被災地では多くの人的・物的な被害が生じた。そして、震災後2年以上が経過した現在においても復興の途上にある。透析患者は、透析に至る基礎的な疾患の管理はもちろんのこと、定期的に透析を受けなければならない。つまり、普段から、透析や疾患管理に伴う生活上の制約に適応しながら生活を送ることが必要である。そのため、震災などの特別にストレスフルな事態に直面し、透析を受けることが困難になったり、生活基盤が損なわれるような事態に直面した場合には、一般の人たちよりもその影響が深刻に表れる可能性が高い。しかしながら、震災に直面した透析患者が経験する困難な状況については、それを明らかにするための大規模な調査はこれまでほとんど行われていない。

加えて、震災という事態が起こることを想定し、日頃からそのための備えをしておくことが、その影響を最小限にとどめるために必要なことである。しかし、透析患者が震災に備えてどのような対策をとっているのか、その実態についても十分に把握されていない。

以上の状況を踏まえ、本調査の目的は、以下2つに設定した。

第1に、東日本大震災後2年が経過した時点ではあるが、現時点における透析患者の健康と生活の実態を把握することで、震災の影響がどの程度残っているのか、それに対応するための透析患者への対策が必要か否かを明らかにすることである。

第2には、震災発生を想定した事前準備の実態を把握することで、事前準備への周知徹底の必要性について明らかにすることである。

Ⅱ 方法

1. 対象者と調査方法

調査対象は、2013年3月時点で、岩手県、宮城県、福島県の3県の全国腎臓病患者協議会の会員全数4,085人であった。同年3月中旬より各県の協議会の役員を通じて、透析医療機関などで各会員に無記名の自記式調査票を配布した。回収は郵送によって行った。最終的な回収数(4月末)は1,845(回収率45.2%)人であった。

2. 調査項目

1) 透析の概要

(1) 腎不全の原因疾患、(2) 透析年数

2) 現在の健康状態

(1) 健康度自己評価、(2) 生活の自立度、(3) 精神健康、(4) 心的外傷ストレス障害

3) 震災への備え

(1) 透析中の震災への対応、(2) 震災時に透析医療機関が利用できなくなった時の対応
(3) 震災時通常利用している透析医療機関が利用できなくなったときの代替医療機関のあて
(4) 震災時利用可能な透析医療機関を探す方法、(5) 震災で透析を受けられない場合の健康管理、
(6) 震災時にケガなどで透析医療機関に通院できない場合の介助
(7) 外出時にダイアライザーの種類や血流量が記載された手帳の携帯

4) 現在における生活

(1) 社会的支援、(2) 居住地、(3) 世帯構成、(4) 就業、(5) 住居の種類、(6) 収入

5) 震災前の生活

(1) 社会的支援、(2) 居住地、(3) 世帯構成、(4) 就業、(5) 住居の種類、(6) 収入

6) 震災前の健康

(1) 健康度自己評価、(2) 生活の自立度

7) 東日本大震災の経験

(1) 恐怖感、(2) 外傷や火傷、(3) 病気・障がいへの罹患、(4) 家屋への影響、(5) 家族の死亡
(6) 家族の外傷・火傷、(7) 死者や重症者の目撃、(8) 家族の安否情報、(9) 避難経験
(10) 救助、(11) 透析の未実施、(12) 医療機関の変更、(13) 生活上の変化

3. 分析枠組み

1) 基本クロス集計：

年齢階級別（65歳以上と65歳未満に区分）、性別に各項目の分布を示した。

2) 現在と震災前と比較：

震災前の生活と健康も振り返り法により質問している。これを利用し、現在と震災前との比較を行うことで、震災の影響を評価することとした。年齢階級別に震災前の各項目の分布を比較する際には、調査時点の年齢階級を用いることとし、震災前後において同じ集団で比較できるようにした。

3) 現在の健康に影響する要因：

現在の健康状態に影響する要因として、特に震災の経験を取り上げた。それによって、震災の経験が現在の健康状態に対して大きな影響を与え続けている場合には、今からでもそれに対するきちんとした対応の必要性が示されることとなる。

Ⅲ 結 果

1. 属性

年齢階層は、「65歳未満」が46%、「65歳以上」が53%であった。性別では「男性」が56%、「女性」が43%であった。透析の原因疾患は、「慢性糸球体腎炎」が48%、「糖尿病性腎症」が28%などであった。透析年数は、「5年未満」が30%、「5年以上10年未満」が27%などであった。学歴別分布をみると、「中学卒業」が27%、「高等学校卒」が47%であった（表1-1）。

属性		(%)
年齢	65歳未満	45.6
	65歳以上	52.7
	無回答	1.7
性	男性	55.6
	女性	42.8
	無回答	1.7
透析の原因疾患	慢性糸球体腎炎	47.5
	糖尿病性腎症	27.7
	その他	20.6
	無回答	4.3
透析年数	5年未満	29.7
	5年以上10年未満	26.8
	10年以上20年未満	27.2
	20年以上30年未満	11.6
	30年以上	4.1
	無回答	0.5
学歴	中学校卒	26.7
	高等学校卒	46.6
	専門学校・短期大学	12.5
	大学・大学院	11.0
	無回答	3.2
n		1,845

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

2. 震災の経験

1) 健康への影響

震災が原因で外傷・火傷を受けたか否かについては、「入院するほどの外傷・火傷を受けた」あるいは「入院するほどではないが、外傷・火傷を受けた」という回答の合計が3%であった（表2-1-1）。この回答分布は、年齢階級別・性別にみて大きな差はみられなかった。

表 2-1-1： 震災で受けた外傷・火傷の程度 (単位：%)

属性	震災で受けた外傷・火傷の程度				計	
	入院するほどの外傷・火傷を受けた	入院するほどではなかったが、外傷・火傷を受けた	外傷・火傷を受けなかった	無回答		
年齢階級	65歳未満	0.1	2.1	96.7	1.1	100.0
	65歳以上	1.2	2.8	91.0	4.9	100.0
	無回答	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0
性	男性	0.9	2.6	93.9	2.6	100.0
	女性	0.5	2.3	93.4	3.8	100.0
	無回答	0.0	0.0	48.4	51.6	100.0
計	0.7	2.4	92.9	4.0	100.0	

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

震災を経験して以降、大きな体の病気にかかったか否かについては、「入院するほどの病気にかかった」あるいは「入院はしなかったが外来通院した」という回答の合計が29%、「病院にはかからなかったが、体調がとても悪かった」を加えると、全体の41%が体の不調を経験していた（表2-1-2）。この回答分布は、年齢階級別・性別にみて大きな差はみられなかった。

表 2-1-2： 震災以降の大きな体の病気への罹患 (単位：%)

属性	震災以降の大きな体の病気への罹患				計		
	入院するほどの病気にかかった	入院はしなかったが、外来通院した	病院にはかかっていなかったが、体調がとても悪かった	病気にかからなかった			
年齢階級	65歳未満	16.2	10.7	12.7	58.6	1.8	100.0
	65歳以上	16.7	15.0	11.2	48.5	8.6	100.0
	無回答	3.1	12.5	6.2	28.1	50.0	100.0
性	男性	18.2	13.9	9.6	54.5	3.8	100.0
	女性	14.1	11.9	15.1	51.3	7.6	100.0
	無回答	3.2	12.9	3.2	29.0	51.6	100.0
計	16.2	13.0	11.8	52.7	6.2	100.0	

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

震災が原因で身体に障がいを患ったり、大きな病気に罹患したか否かについては、「ひどいのが残った」あるいは「軽いのが残った」という回答の合計が15%であった（表2-1-3）。この回答分布は、年齢階級別・性別にみて大きな差はみられなかった。

表2-1-3： 震災が原因で身体に障がいや大きな病気への罹患の有無（単位：%）

属性	身体に障がいや大きな病気への罹患の有無				計	
	ひどいのが残った	軽いのが残った	残らなかった	無回答		
年齢階級	65歳未満	3.6	9.2	85.0	2.3	100.0
	65歳以上	4.3	11.7	76.1	7.8	100.0
	無回答	3.1	12.5	40.6	43.8	100.0
性	男性	3.7	10.0	82.2	4.1	100.0
	女性	4.3	11.3	77.6	6.8	100.0
	無回答	3.2	12.9	41.9	41.9	100.0
計	4.0	10.6	79.6	5.9	100.0	

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

2) 家族への影響

震災によって亡くなった家族がいるか否かについては、「いた」という回答は3%であった(表 2-2-1)。この回答分布は、年齢階級別・性別にみて大きな差はみられなかった。

表 2-2-1： 震災によって亡くなった家族の有無 (単位：%)

属性	亡くなった家族の有無			計	
	いた	いなかった	無回答		
年齢階級	65歳未満	2.9	96.3	0.8	100.0
	65歳以上	3.6	93.6	2.8	100.0
	無回答	0.0	59.4	40.6	100.0
性	男性	3.4	95.0	1.6	100.0
	女性	2.9	94.7	2.4	100.0
	無回答	3.2	58.1	38.7	100.0
	計	3.2	94.3	2.5	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

震災によって重傷を負ったり、障がい者になった家族がいるか否かについては、「いた」という回答は2%であった(表 2-2-2)。この回答分布は、年齢階級別・性別にみて大きな差はみられなかった。

表 2-2-2： 震災によって重傷を負ったり、障がい者になった家族の有無 (単位：%)

属性	重傷を負ったり、障がい者になった家族の有無			計	
	いた	いなかった	無回答		
年齢階級	65歳未満	1.5	97.5	1.0	100.0
	65歳以上	1.6	95.5	2.9	100.0
	無回答	0.0	56.2	43.8	100.0
性	男性	1.6	97.1	1.4	100.0
	女性	1.6	95.6	2.8	100.0
	無回答	0.0	54.8	45.2	100.0
	計	1.6	95.7	2.7	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

3) 心理への影響

震災時にどれほどの恐怖を感じたかについては、「非常に恐ろしかった」が49%、「恐ろしかった」が31%と80%の人が恐怖を感じていた（表2-3-1）。この項目の分布は性別に差があり、「非常に恐ろしかった」という回答は、男性では41%であったのに対し、女性では60%と20ポイントの差があった。

表2-3-1：震災で感じた恐怖の程度

(単位：%)

属性	恐怖の程度					計	
	非常に恐ろしかった	恐ろしかった	少し恐ろしかった	あまり恐ろしくなかった / 冷静であった	無回答		
年齢階級	65歳未満	48.5	31.4	13.8	5.8	0.5	100.0
	65歳以上	50.0	30.6	10.8	6.2	2.5	100.0
	無回答	25.0	18.8	12.5	6.2	37.5	100.0
性	男性	41.2	34.8	14.7	7.9	1.4	100.0
	女性	60.1	25.7	8.9	3.5	1.8	100.0
	無回答	19.4	22.6	12.9	6.5	38.7	100.0
計	48.9	30.7	12.2	6.0	2.2	100.0	

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

震災時に、死亡したり、大けがをした人を目撃したか否かについては、「した」が7%、「いなかった」が90%であった（表2-3-2）。この回答分布は、年齢階級別・性別にみて大きな差はみられなかった。

表2-3-2：震災時に死亡したり、大けがをした人を目撃の有無

(単位：%)

属性	目撃の有無			計	
	した	しなかった	無回答		
年齢階級	65歳未満	7.6	91.3	1.1	100.0
	65歳以上	7.0	90.0	3.0	100.0
	無回答	0.0	56.2	43.8	100.0
性	男性	8.4	90.0	1.7	100.0
	女性	5.7	91.5	2.8	100.0
	無回答	3.2	54.8	41.9	100.0
計	7.2	90.0	2.8	100.0	

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

震災時において、家族の安否情報がなく不安であったか否かについては、「あった」が43%、「なかった」が53%であった（表 2-3-3）。この回答分布は、年齢階級別・性別にみて大きな差はみられなかった。

表 2-3-3： 震災時家族の安否情報がなく不安であったか否か（単位：％）

属性	安否情報がなく不安			計	
	あった	なかった	無回答		
年齢階級	65歳未満	49.8	48.8	1.4	100.0
	65歳以上	38.6	57.7	3.7	100.0
	無回答	21.9	34.4	43.8	100.0
性	男性	40.9	56.9	2.2	100.0
	女性	47.4	49.3	3.3	100.0
	無回答	25.8	32.3	41.9	100.0
	計	43.4	53.2	3.4	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

震災発生後において被災者の救助活動に携わったか否かについては、「携わった」が9%、「携わらなかった」が86%であった（表 2-3-4）。この回答分布は、年齢階級別・性別にみて大きな差はみられなかった。

表 2-3-4： 震災後における救助活動への関与（単位：％）

属性	救助活動への関与			計	
	携わった	携わらなかった	無回答		
年齢階級	65歳未満	11.9	85.9	2.3	100.0
	65歳以上	6.2	87.2	6.6	100.0
	無回答	3.1	53.1	43.8	100.0
性	男性	10.4	86.3	3.2	100.0
	女性	6.8	86.7	6.5	100.0
	無回答	0.0	58.1	41.9	100.0
	計	8.7	86.0	5.3	100.0

%の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

4) 物理的影響

震災による自宅の損壊については、「全壊」が6%、「半壊」が13%、「一部損壊」が40%と半数以上の人が被害を被っていた（表 2-4-1）。この回答分布は、年齢階級別・性別にみて大きな差はみられなかった。

表 2-4-1： 震災による自宅の損壊 (単位：%)

属性	自宅の損壊					計	
	全壊	半壊	一部損壊	被害なし	無回答		
年齢階級	65歳未満	6.1	12.2	41.6	39.2	0.8	100.0
	65歳以上	5.9	14.0	39.1	38.9	2.2	100.0
	無回答	3.1	3.1	31.2	21.9	40.6	100.0
性	男性	6.1	12.8	42.2	38.0	0.9	100.0
	女性	5.7	13.4	37.9	40.4	2.5	100.0
	無回答	3.2	9.7	25.8	22.6	38.7	100.0
	計	5.9	13.0	40.1	38.8	2.2	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

震災による避難の有無については、「避難した」が36%であった。この回答分布は、年齢階級別・性別にみて大きな差はみられなかった（表 2-4-2）。避難した人の最初の避難先は、「避難所」が35%、「他の家族・親戚・知人の家」が28%であった（表 2-4-3）。避難した人について、現在被災前の住居に帰宅できているか否かについては、「戻ることができた」人が80%、「以前とは異なるが、定住できる家に移動」が8%、「定住できる家に移動できていない」が9%であった（表 2-4-4）。

表 2-4-2： 震災による避難の有無 (単位：%)

属性	避難の有無			計	
	避難した	避難しなかった	無回答		
年齢階級	65歳未満	35.7	62.9	1.4	100.0
	65歳以上	36.5	59.4	4.1	100.0
	無回答	25.0	34.4	40.6	100.0
性	男性	35.7	62.0	2.2	100.0
	女性	36.9	59.4	3.7	100.0
	無回答	19.4	38.7	41.9	100.0
	計	35.9	60.5	3.5	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 2-4-3： 最初の避難先（単位：％）

避難所	34.5
他の家族・親戚・知人の家	27.8
車、ビニールハウス	3.6
その他	21.0
無回答	4.2
n	663

注) %の合計が 100%とならない場合があるのは、小数点以下 2 位を四捨五入しているためである。

表 2-4-4： 被災前の住居への帰宅（単位：％）

戻ることができた	80.1
以前とは異なるが、定住できる家に移動	7.7
定住できる家に移動できていない	9.0
無回答	3.2
n	663

注) %の合計が 100%とならない場合があるのは、小数点以下 2 位を四捨五入しているためである。

5) 医療受診への影響

震災によって透析を受けることができなかつた回数は、「なし」が68%、「1回」が14%、「2回」が6%、「3回以上」が7%であった(表2-5-1)。年齢階級別にみると、「なし」との回答は、65歳未満では63%と65歳以上の人と比較して10ポイント程度低かつた。性による違いは大きくなかつた。

表2-5-1: 震災による透析未実施の回数

(単位:%)

属性	未実施の回数					計	
	なし	1回	2回	3回以上	無回答		
年齢階級	65歳未満	63.4	18.1	8.7	6.2	3.7	100.0
	65歳以上	72.2	11.2	4.0	6.9	5.7	100.0
	無回答	43.8	6.2	3.1	3.1	43.8	100.0
性	男性	67.5	15.6	6.5	6.3	4.0	100.0
	女性	68.9	12.8	5.7	7.0	5.6	100.0
	無回答	41.9	6.5	3.2	0.0	48.4	100.0
計	67.7	14.3	6.1	6.5	5.4	100.0	

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

震災によって透析医療機関、透析以外の医療機関を変更したか否かについては、透析医療機関を変更したのは17%、透析医療機関以外の医療機関を変更したのが2.4%、いずれも変更しなかつたのが74%であった。年齢階級や性による分布の違いは大きくなかつた(表2-5-2)。

表2-5-2: 震災による医療機関の変更

(単位:%)

属性	医療機関の変更				計	
	透析医療機関の変更	透析以外の医療機関の変更	変更なし	無回答		
年齢階級	65歳未満	16.6	2.3	78.8	2.7	100.0
	65歳以上	18.2	2.6	72.0	7.7	100.0
	無回答	12.5	0.0	6.2	81.2	100.0
性	男性	17.5	2.8	75.2	5.0	100.0
	女性	17.6	1.8	74.9	6.2	100.0
	無回答	9.7	3.2	9.7	77.4	100.0
計	17.4	2.4	74.0	6.7	100.0	

注1) 透析医療機関と透析医療機関以外の医療機関の変更については、複数回答であった。

注2) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

6) 生活への影響

発生前と現在とを比較して、変化があったこととして最も多かった指摘は、「収入が減った」であり、その割合は 18%であった。次いで「将来の蓄えをほとんど使ってしまった」(16%)、「地域の人や友人との交流が減ったこと」(14%) が 10%以上を占めていた(表 2-6-1)。

年齢階級別にみて分布に差があった項目は「収入が減った」であり、65 歳未満では 23%と 65 歳以上の人よりも約 10 ポイント高かった。

表 2-6-1: 震災による生活影響 (単位: %)

属性	変化があったこと							
	家族の仲が悪くなった	地域の人や友人との交流が減った	収入がかなり減った	将来の蓄えをほとんど使った	職業を失って再就職できない	転職したが以前より仕事がよくない	生活の再建のめどがたたない	
年齢階級	65 歳未満	4.4	13.4	22.9	19.6	7.8	2.9	9.2
	65 歳以上	2.7	15.0	13.7	13.8	3.7	1.4	6.9
	無回答	0.0	3.1	6.2	3.1	0.0	0.0	3.1
性	男性	3.3	14.2	19.1	18.0	6.8	2.5	8.6
	女性	3.5	14.2	16.6	14.4	4.1	1.5	7.2
	無回答	3.2	6.5	3.2	3.2	0.0	0.0	0.0
計	3.4	14.1	17.8	16.3	5.5	2.1	7.9	

注 1) 複数回答。

注 2) %の合計が 100%とならない場合があるのは、小数点以下 2 位を四捨五入しているためである。

注 3) %を算出する際の分母には、無回答の人も含まれている。

3. 生活

1) 社会的支援

(1) 現在

心配事の相談ができるか、手助けを頼めるか、いたわりや思いやりを示してくれるか、といった支援の内容別に、支援してくれる人がいるか否かを続柄別に質問した。いずれの支援の場合でも、受けることができるとした人の割合は、「配偶者」で65%以上と最も高く、「配偶者以外の同居家族」「別居の家族・親族」がそれぞれ50%程度と続いていた。「近所の人」「友人」については、いずれも20~30%台であった(表3-1-1、表3-1-2、表3-1-3)。

性別でみると、いずれの支援の場合も「配偶者」からの支援の割合で性差が著しく、男性ではこの割合が70%以上であったのに対し、女性では50%台であった。年齢階級別では、友人からの支援の割合に差が著しく、心配事の相談できる、あるいはいたわりや思いやりを示してくれる人の割合は、65歳未満では40%以上であったが、65歳以上では30%未満であった。

表3-1-1： 続柄別にみた心配事を相談できるとした人の割合（現在）（単位：％）

属性	相談できるとした人の割合					
	配偶者	配偶者以外の同居家族	別居の家族・親族	近所の人	友人	
年齢階級	65歳未満	63.6	51.3	57.9	22.6	41.6
	65歳以上	67.5	43.8	53.4	22.8	29.3
	無回答	56.2	37.5	37.5	12.5	21.9
性	男性	73.0	47.5	52.8	20.7	31.9
	女性	56.5	47.0	59.2	25.4	39.2
	無回答	48.4	38.7	32.3	9.7	19.3
計	65.6	47.1	55.2	22.5	34.8	

注) 相談できるとした人とは、続柄別に心配事があったときに「かなりのってくれる」「いくらかのってくれる」と回答した人のことである。割合を算出する際の分母には、無回答の人、配偶者の場合には配偶者がいない人も含まれている。

表3-1-2： 続柄別にみたちょっとした手助けを頼めるとした人の割合（現在）（単位：％）

属性	手助けを頼めるとした人の割合					
	配偶者	配偶者以外の同居家族	別居の家族・親族	近所の人	友人	
年齢階級	65歳未満	65.3	53.0	53.7	21.7	33.4
	65歳以上	69.0	47.8	45.8	20.9	25.1
	無回答	56.3	43.7	31.3	9.3	18.7
性	男性	73.8	51.4	47.0	19.7	26.5
	女性	59.2	48.7	52.7	23.4	32.4
	無回答	48.4	41.9	29.0	9.7	16.1
計	67.1	50.1	49.2	21.1	28.9	

注) ちょっとした手助けを頼めるとした人とは、続柄別にちょっとした手助けが必要なときに「かなりしてくれる」「いくらかしてくれる」と回答した人のことである。割合を算出する際の分母には、無回答の人、配偶者の場合には配偶者がいない人も含まれている。

表 3-1-3: 続柄別にみたいたわりや思いやりを示してくれるとした人の割合(現在) (単位:%)

属性	いたわりや思いやりを示してくれるとした人の割合					
	配偶者	配偶者以外 の同居家族	別居の家族・ 親族	近所の人	友人	
年齢階級	65歳未満	63.8	54.1	59.6	26.3	42.3
	65歳以上	68.6	48.3	53.0	25.7	28.8
	無回答	59.4	40.6	34.4	15.6	21.9
性	男性	73.6	51.6	53.3	23.4	31.7
	女性	57.3	50.3	59.8	29.3	39.7
	無回答	51.6	38.7	32.3	16.1	19.4
	計	66.2	50.8	55.8	25.8	34.9

注)いたわりや思いやりを示してくれるとした人とは、続柄別に「かなり示してくれる」「いくらか示してくれる」と回答した人のことである。割合を算出する際の分母には、無回答の人、配偶者の場合には配偶者がいない人も含まれている。

(2) 震災前

振り返り法ではあるが、震災前の社会的支援の状況を続柄別に質問した。社会的支援の内容は、心配事の相談ができるか、手助けを頼めるか、いたわりや思いやりを示してくれるか、であった。いずれの支援の場合でも、受けることができるとした人の割合は、「配偶者」で65%以上と最も高く、「配偶者以外の同居家族」「別居の家族・親族」がそれぞれ50%程度と続いていた。「友人」については、心配事を相談できる、いたわりや思いやりを示してくれるという人がそれぞれ40%以上であった。この割合は、現在の状態と比較して10%程度高かった。「近所の人」については、いずれも20~30%台であった(表3-1-4、表3-1-5、表3-1-6)。

性別でみると、いずれの支援の場合も「配偶者」からの支援の割合で性差が著しく、この割合は男性では70%以上であったのに対し、女性では60%台であった。年齢階級別では、友人からの支援の割合に差が著しく、心配事の相談できる、あるいはいたわりや思いやりを示してくれる人の割合は、65歳未満では45%以上であったが、65歳以上では35%程度と10ポイントの差があった。

表 3-1-4: 続柄別にみた心配事を相談できるとした人の割合(震災前) (単位:%)

属性	相談できるとした人の割合					
	配偶者	配偶者以外 の同居家族	別居の家族・ 親族	近所の人	友人	
年齢階級	65歳未満	67.1	57.2	63.9	27.2	46.4
	65歳以上	72.7	49.5	55.5	29.0	35.4
	無回答	43.7	43.7	31.3	12.5	18.8
性	男性	77.0	54.2	56.8	27.5	37.1
	女性	61.4	51.4	62.8	29.0	45.0
	無回答	38.7	45.1	25.8	12.9	16.1
	計	69.7	52.9	58.8	27.9	40.2

注)相談できるとした人とは、続柄別に心配事があったときに「かなりのつてくれる」「いくらかのつてくれる」と回答した人のことである。割合を算出する際の分母には、無回答の人、配偶者の場合には配偶者がいない人も含まれている。

表 3-1-5： 続柄別にみたちょっとした手助けを頼めるとした人の割合（震災前）（単位：％）

属性		ちょっとした手助けを頼めるとした人の割合				
		配偶者	配偶者以外 の同居家族	別居の家族・ 親族	近所の人	友人
年齢	65歳未満	66.7	57.2	61.2	26.6	41.3
	65歳以上	60.5	48.9	53.4	28.4	32.4
	無回答	37.5	40.6	40.6	15.6	21.9
性	男性	73.9	53.4	54.4	26.5	33.6
	女性	61.0	51.8	60.6	29.0	40.4
	無回答	32.2	42.0	35.5	12.9	19.4
計		68.3	52.5	56.7	27.3	26.2

注) ちょっとした手助けを頼める人とは、続柄別にちょっとした手助けが必要なときに「かなりしてくれる」「いくらかしてくれる」と回答した人のことである。割合を算出する際の分母には、無回答の人、配偶者の場合には配偶者がいない人も含まれている。

表 3-1-6： 続柄別にみたいたわりや思いやりを示してくれるとした人の割合（震災前）（単位：％）

属性		いたわりや思いやりを示してくれるとした人の割合				
		配偶者	配偶者以外 の同居家族	別居の家族・ 親族	近所の人	友人
年齢階級	65歳未満	67.4	57.3	65.1	30.6	46.1
	65歳以上	71.3	50.3	56.3	30.3	35.3
	無回答	50.0	37.4	34.4	15.6	21.9
性	男性	76.3	54.5	58.3	29.0	37.3
	女性	60.8	52.1	63.2	32.3	44.2
	無回答	42.0	42.0	32.3	12.9	19.3
計		66.2	50.8	60.0	30.2	40.0

注) いたわりや思いやりを示してくれる人とは、続柄別に「かなり示してくれる」「いくらか示してくれる」と回答した人のことである。割合を算出する際の分母には、無回答の人、配偶者の場合には配偶者がいない人も含まれている。

(3) 震災前と現在との比較

心配事を相談できる人がいるか否か、その割合を続柄別にみた場合、変化なしの人がいずれの続柄でも80%を超えており、震災前と現在とでは大きな変化はなかった。ただし、減少した人の割合は、配偶者を除く続柄のすべてで10%を超えており、増加したとする人の2倍以上であった(表3-1-7)。ちょっとした手助けを頼める人、いたわりや思いやりを示してくれる人についても、心配事を相談できる人があるか否かの結果とほぼ同じであった(表3-1-8、表3-1-9)。

表3-1-7： 続柄別にみた心配事を相談できるとした人の変化 (単位：%)

	配偶者	配偶者以外の同居家族	別居の家族・親族	近所の人	友人
増加	1.7	3.5	5.2	4.3	4.2
変化なし	91.3	85.3	83.2	84.0	84.0
減少	7.0	11.3	11.6	11.7	11.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注)集計に際しては、現在と震災前の質問に対して無回答の人は除外した。増加とは、震災前では、「あまり／まったくのってこない」と回答した人が、現在では「かなりのってこられる」「いくらかのってこられる」と回答した場合のことである。減少とは、その逆に「かなりのってこられる」「いくらかのってこられる」と回答した人が、現在では「あまり／まったくのってこない」と回答した場合のことである。

表3-1-8： 続柄別にみたちょっとした手助けを頼めるとした人の変化 (単位：%)

	配偶者	配偶者以外の同居家族	別居の家族・親族	近所の人	友人
増加	1.6	4.1	3.9	3.2	2.7
変化なし	93.7	87.2	82.1	85.6	85.0
減少	4.7	8.7	14.1	11.3	12.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注)集計に際しては、現在と震災前の質問に対して無回答の人は除外した。増加とは、震災前では、「あまり／まったくしてくれない」と回答した人が、現在では「かなりしてくる」「いくらかしてくる」と回答した場合のことである。減少とは、その逆に「かなりしてくる」「いくらかしてくる」と回答した人が、現在では「あまり／まったくしてくれない」と回答した場合のことである。

表3-1-9： 続柄別にみたいたわりや思いやりを示してくれる人の変化 (単位：%)

	配偶者	配偶者以外の同居家族	別居の家族・親族	近所の人	友人
増加	1.4	3.9	3.9	3.8	4.0
変化なし	93.1	87.9	86.4	86.6	85.5
減少	5.5	8.2	9.8	9.6	10.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注)集計に際しては、現在と震災前の質問に対して無回答の人は除外した。増加とは、震災前では、「あまり／まったくしてくれない」と回答した人が、現在では「かなりしてくる」「いくらかしてくる」と回答した場合のことである。減少とは、その逆に「かなりしてくる」「いくらかしてくる」と回答した人が、現在では「あまり／まったくしてくれない」と回答した場合のことである。

2) 世帯構成

現在の世帯構成は、「単独世帯」が9.8%、「夫婦のみ世帯」が30%、「それ以外の世帯」が60%であった(表3-2-1)。65歳以上の人では65歳未満の人と比較して、「夫婦のみ世帯」の割合が10ポイント程度高かった。性による違いは顕著でなかった。

震災前でもほぼ同じような分布であった。すなわち、単独世帯が9%、夫婦のみ世帯が28%、それ以外の世帯が61%であった(表3-2-2)。年齢階級別と性別分布については、現在の傾向と同じであった。

震災前と現在とを比較してみると、いずれの世帯構成とも変化は少なかった。家族内資源が乏しい世帯に移行した人、すなわち震災前に「夫婦のみ」の世帯であった人の中で「単独」に移行した人、「その他」であった人の中で「単独」に移行した人の割合はそれぞれ2%と1%であった。

表 3-2-1：現在の世帯構成 (単位：%)

属性	世帯構成				計	
	単独	夫婦のみ	その他	無回答		
年齢階級	65歳未満	11.1	24.0	64.2	0.7	100.0
	65歳以上	8.8	34.5	55.9	0.8	100.0
	無回答	3.1	21.9	75.0	0.0	100.0
性	男性	9.3	31.0	59.2	0.5	100.0
	女性	10.6	27.9	60.3	1.1	100.0
	無回答	3.2	19.4	77.4	0.0	100.0
計	9.8	29.5	60.0	0.8	100.0	

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 3-2-2：震災前の世帯構成 (単位：%)

属性	世帯構成				計	
	単独	夫婦のみ	その他	無回答		
年齢階級	65歳未満	9.8	21.9	67.8	0.6	100.0
	65歳以上	8.6	34.0	55.1	2.3	100.0
	無回答	3.1	12.5	59.4	25.0	100.0
性	男性	8.5	29.9	60.0	1.7	100.0
	女性	10.0	26.5	62.2	1.3	100.0
	無回答	3.2	9.7	61.3	25.8	100.0
計	9.1	28.1	61.0	1.9	100.0	

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 3-2-3：現在と震災前の世帯構成の変化 (単位：%)

震災前	現在			計
	単独	夫婦のみ	その他	
単独	92.6	0.0	7.4	100.0
夫婦のみ	1.6	90.5	7.9	100.0
その他	1.4	6.1	92.5	100.0

注) 集計に際しては、現在と震災前の質問に対して無回答の人は除外した。

3) 居住地

現在の居住県は、「福島県」が44%、「宮城県」が34%、「岩手県」が20%であった（表3-3-1）。年齢階級別、性別にみても分布に大きな差はみられなかった。

震災前の居住県もほぼ同様の分布であった（表3-3-2）。すなわち、「福島県」が44%、「宮城県」が33%、「岩手県」が20%であった。年齢階級別、性別にみても分布に大きな差はみられなかった。

現在と震災前における移動について、市町村のレベルでの移動に着目してみると、同一市町村に居住している人は95%、他の市町村に移動したという人が5%であった。

表 3-3-1： 現在の居住県 (単位：%)

属性		居住県					計
		岩手県	宮城県	福島県	その他	無回答	
年齢階級	65歳未満	20.1	32.9	44.9	0.2	1.8	100.0
	65歳以上	20.0	34.5	42.7	0.1	2.8	100.0
	無回答	21.9	21.9	46.9	3.1	6.2	100.0
性	男性	21.1	34.2	42.5	0.1	2.0	100.0
	女性	18.8	33.1	45.2	0.3	2.7	100.0
	無回答	19.4	22.6	48.4	3.2	6.5	100.0
	計	20.1	33.6	43.8	0.2	2.4	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 3-3-2： 震災前の世帯構成 (単位：%)

属性		居住県					計
		岩手県	宮城県	福島県	その他	無回答	
年齢階級	65歳未満	20.2	32.7	44.7	0.6	1.8	100.0
	65歳以上	20.3	34.4	42.8	0.0	2.6	100.0
	無回答	21.9	12.5	34.4	3.1	28.1	100.0
性	男性	21.3	34.0	42.1	0.3	2.3	100.0
	女性	18.9	33.1	45.5	0.3	2.3	100.0
	無回答	22.6	12.9	38.7	3.2	22.6	100.0
	計	20.3	33.2	43.5	0.3	2.7	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 3-3-3： 現在と震災前の居住自治体（市町村）の変化 (単位：%)

同一市町村に居住	95.0
他の市町村に転居	5.0
計	100.0

注) 集計に際しては、現在と震災前の質問に対して無回答の人は除外した。

4) 就業

現在の就業状況は、「就業」が27%、「無就業」が68%であった（表3-4-1）。年齢階級別にみると、「就業」の割合は、65歳未満では38%と65歳以上の17%の2倍以上であった。性別でも差が大きく、「就業」の割合は、男性では36%と女性の15%の2倍以上であった。

震災前の就業状況は、「就業」が32%、「無就業」が60%で、現在と比較して「無就業者」の割合が5ポイント高かった（表3-4-2）。年齢階級別にみると、「就業」の割合は、65歳未満では44%と65歳以上の21%の2倍以上であった。性別でも差が大きく、「就業」の割合は、男性では42%と女性の19%の2倍以上であった。

現在と震災前における変化をみると、「就業」から「就業」、「無就業」から「無就業」という変化がない人の割合は90%であった。他方、「就業」から「無就業」へと変化した人は8%、「無就業」から「就業」へと変化した人が2%と、就業から無就業へと変化した人の割合の方が多かった（表3-4-3）。就業から無就業へと変化した人の割合の方が高かったことが、震災前と比較して現在の就業割合が低かったことの原因であった。

表 3-4-1：現在の就業の有無 (単位：%)

属性	就業の有無			計	
	就業	無就業	無回答		
年齢階級	65歳未満	37.9	59.2	2.9	100.0
	65歳以上	17.0	76.5	6.5	100.0
	無回答	31.2	56.2	12.5	100.0
性	男性	35.5	60.3	4.2	100.0
	女性	15.5	78.7	5.8	100.0
	無回答	25.8	67.7	6.5	100.0
計	26.8	68.3	4.9	100.0	

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 3-4-2：震災前の就業の有無 (単位：%)

属性	就業の有無			計	
	就業	無就業	無回答		
年齢階級	65歳未満	44.4	51.7	3.9	100.0
	65歳以上	21.5	68.5	10.0	100.0
	無回答	28.1	37.5	34.4	100.0
性	男性	42.7	50.6	6.6	100.0
	女性	18.5	73.5	8.0	100.0
	無回答	22.6	45.2	32.3	100.0
計	32.0	60.3	7.6	100.0	

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 3-4-3：現在と震災前の就業状況の変化 (単位：%)

就業（震災前）から就業（現在）	26.6
就業（震災前）から無就業（現在）	8.2
無就業（震災前）から就業（現在）	1.8
無就業（震災前）から無就業（現在）	63.4
計	100.0

注) 集計に際しては、現在と震災前の質問に対して無回答の人は除外した。

5) 住居

現在の住居の種類は、「持家」が81%、「賃貸」が15%、「仮設住宅」が3%であった(表3-5-1)。年齢階級別にみると、「賃貸」が65歳未満では18%であるのに対し、65歳以上では11%とやや少なかった。

震災前の持家の種類は、「持家」が83%、「賃貸」が14%であり、持家の割合が現在と比較して3ポイント高かった(表3-5-2)。現在における状況と共通して、年齢階級別にみると、「賃貸」が65歳未満では18%であるのに対し、65歳以上では11%とやや少なかった。

震災前に「持家で」あった人のうち、現在「賃貸」に居住している人が2%、「仮設住宅」に居住している人が3%であった(表3-5-3)。

表 3-5-1： 現在の住居の種類 (単位：%)

属性		住居の種類					計
		持家	賃貸	仮設住宅	その他	無回答	
年齢階級	65歳未満	76.7	18.2	2.7	1.4	1.0	100.0
	65歳以上	83.6	11.4	2.7	1.5	0.7	100.0
	無回答	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	100.0
性	男性	80.7	14.5	2.6	1.5	0.7	100.0
	女性	80.0	14.7	2.8	1.5	1.0	100.0
	無回答	90.3	9.7	0.0	0.0	0.0	100.0
	計	80.5	14.5	2.7	1.5	0.8	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 3-5-2： 震災前の住居の種類 (単位：%)

属性		住居の種類				計
		持家	賃貸	その他	無回答	
年齢階級	65歳未満	79.7	17.5	1.8	1.1	100.0
	65歳以上	86.8	10.5	0.9	1.7	100.0
	無回答	62.5	9.4	0.0	28.1	100.0
性	男性	83.5	13.4	1.6	1.6	100.0
	女性	83.4	14.3	1.0	1.3	100.0
	無回答	64.5	6.5	0.0	29.0	100.0
	計	83.1	13.7	1.3	1.9	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 3-5-3： 現在と震災前の住居の種類の変化 (単位：%)

震災前	現在				計
	持家	賃貸	仮設住宅	その他	
持家	94.8	2.2	2.5	0.5	100.0
賃貸・借家	5.2	90.0	3.6	1.2	100.0
その他	8.7	8.7	8.7	73.9	100.0

注) 集計に際しては、現在と震災前の質問に対して無回答の人は除外した。

6) 収入

現在の世帯年収は、「120万円未満」が16%、「120～300万円未満」が38%、「300～400万円未満」が15%であった（表3-6-1）。年齢階級別、性別による分布に大きな差はなかった。

震災前の世帯年収は、「120万円未満」が14%、「120～300万円未満」が36%、「300～400万円未満」が16%と、震災前と比較すると年収が低い層が多くなっている（表3-6-2）。年齢階級別、性別による分布に大きな差はなかった。

現在と震災前の世帯年収の変化をみると、年収のカテゴリーレベルでは、「120～300万円未満」「300～400万円未満」「400万円以上」のいずれも、下位のカテゴリーに変化した人がそれぞれ5%、15%、15%いた（表3-6-3）。

表 3-6-1：現在の世帯年収 (単位：%)

属性	世帯年収					計	
	120万円未満	120～300万円未満	120～300万円未満	400万円以上	無回答		
年齢階級	65歳未満	18.3	34.4	14.7	25.6	7.0	100.0
	65歳以上	13.6	41.7	16.2	20.3	8.3	100.0
	無回答	28.1	34.4	3.1	15.6	18.8	100.0
性	男性	15.3	42.1	15.2	23.2	4.1	100.0
	女性	16.5	33.1	15.8	22.1	12.5	100.0
	無回答	25.8	38.7	3.2	16.1	16.1	100.0
	計	16.0	38.2	15.3	22.6	7.9	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 3-6-2：震災前の世帯年収 (単位：%)

属性	世帯年収					計	
	120万円未満	120～300万円未満	120～300万円未満	400万円以上	無回答		
年齢階級	65歳未満	15.8	31.3	14.9	30.3	7.7	100.0
	65歳以上	12.1	40.5	16.9	20.0	10.5	100.0
	無回答	18.8	21.9	3.1	15.6	40.6	100.0
性	男性	13.9	38.8	15.4	26.1	5.8	100.0
	女性	13.9	32.7	16.6	23.1	13.7	100.0
	無回答	16.1	25.8	3.2	12.9	41.9	100.0
	計	13.9	36.0	15.7	24.6	9.8	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 3-6-3：現在と震災前の世帯年収の変化 (単位：%)

震災前	現在				計
	120万円未満	120～300万円未満	300～400万円未満	400万円以上	
120万円未満	92.0	6.8	0.0	1.2	100.0
120～300万円未満	5.4	91.2	1.8	1.5	100.0
300～400万円未満	2.8	12.5	80.5	4.2	100.0
400万円以上	2.2	5.8	7.3	84.7	100.0

注) 集計に際しては、現在と震災前の質問に対して無回答の人は除外した。

4. 健康

1) 健康度自己評価

現在の健康度自己評価は、「よい」が10%、「まあよい」が23%、「ふつう」が43%、「あまりよくない」が21%であった。年齢階級別、性別分布に大きな差はなかった（表4-1-1）。

震災前の健康度自己評価については、振り返り法で質問したが、「よい」が14%、「まあよい」が24%、「ふつう」が45%、「あまりよくない」が11%であり、震災前と比較して「あまりよくない」とする人の割合が約2倍であった（表4-1-2）。

現在と震災前の健康度自己評価の変化をみると、改善した人が19%、変化なしの人が51%、悪化した人が30%で、震災前と比較して悪化した人の割合は改善した人の割合の約2倍であった（表4-1-3）。

表 4-1-1：現在の健康度自己評価 (単位：%)

属性	健康度自己評価						計	
	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答		
年齢階級	65歳未満	12.2	23.3	42.9	19.4	1.5	0.7	100.0
	65歳以上	8.7	22.2	43.1	21.8	3.4	0.7	100.0
	無回答	6.2	21.9	43.8	28.1	0.0	0.0	100.0
性	男性	11.0	22.0	44.0	19.5	2.7	0.8	100.0
	女性	9.6	23.4	41.8	22.2	2.3	0.6	100.0
	無回答	3.2	29.0	38.7	29.0	0.0	0.0	100.0
	計	10.3	22.7	43.0	20.8	2.5	0.7	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 4-1-2：震災前の健康度自己評価 (単位：%)

属性	健康度自己評価						計	
	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答		
年齢階級	65歳未満	16.6	25.6	43.2	10.7	3.4	0.5	100.0
	65歳以上	11.2	22.7	48.0	12.9	3.5	1.6	100.0
	無回答	12.5	15.6	25.0	9.4	6.2	31.2	100.0
性	男性	14.4	22.7	45.7	12.1	3.9	1.2	100.0
	女性	13.1	25.6	45.8	11.5	2.8	1.3	100.0
	無回答	6.5	19.4	29.0	9.7	9.7	25.8	100.0
	計	13.7	23.9	45.4	11.8	3.5	1.6	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 4-1-3：現在と震災前の健康度自己評価の変化 (単位：%)

改善	18.6
変化なし	51.1
悪化	30.3
計	100.0

注) 改善とは、健康度自己評価が震災前と比較して震災後に上位のカテゴリーに変化したした場合を、悪化とは、健康度自己評価が震災前と比較して下位のカテゴリーに変化した場合をいう。

2) 生活の自立度

現在の生活自立度は、「楽に一人で出かけている」「楽ではないが一人で出かけている」「家の中ではほぼ不自由なく動き、となり近所には一人で出かけている」というように外出が一人でできる人は75%、「家の中での簡単な仕事ならしている」あるいは「一日中ほとんど寝たきり」というように外出が一人では困難な人は23%であった。外出が困難な人の割合は、年齢階級別、性別にみて差があり、65歳以上の人では31%と65歳未満の人よりも20ポイント、女性の割合は29%で、男性よりも10ポイント程度高かった（表4-2-1）。

震災前の自立度は、外出が一人でできる人が81%、外出が一人では困難な人が17%で、現在の生活自立度よりもやや高かった。外出が困難な人の割合は、年齢階級別にみて差があり、65歳以上の人では23%と65歳未満の人よりも10ポイント以上高かった（表4-2-2）。

現在と震災前の生活自立度の変化をみると、改善した人が3%、変化なしの人が87%、悪化した人が9%で、震災前と比較して悪化した人の割合は改善した人の割合の約3倍であった（表4-2-3）。

表 4-2-1： 現在の生活自立度 (単位：%)

属性	自立度			計	
	外出ができる	外出が困難	無回答		
年齢階級	65歳未満	85.3	14.0	0.7	100.0
	65歳以上	65.6	31.0	3.4	100.0
	無回答	65.6	21.9	12.5	100.0
性	男性	79.2	18.8	2.0	100.0
	女性	68.6	28.9	2.5	100.0
	無回答	74.2	16.1	9.7	100.0
計	74.6	23.1	2.3	100.0	

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 4-2-2： 震災前の生活自立度 (単位：%)

属性	自立度			計	
	外出ができる	外出が困難	無回答		
年齢階級	65歳未満	88.6	10.3	1.1	100.0
	65歳以上	74.9	23.1	2.0	100.0
	無回答	56.2	15.6	28.1	100.0
性	男性	83.9	14.6	1.5	100.0
	女性	77.7	20.5	1.8	100.0
	無回答	58.1	16.1	25.8	100.0
計	80.8	17.2	2.0	100.0	

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

表 4-2-3： 現在と震災前の生活の自立度の変化 (単位：%)

改善	3.2
変化なし	87.4
悪化	9.4
計	100.0

注1) 悪化とは、外出が一人でできた人が一人では困難になった場合、改善とは外出が一人で困難であった人が一人でできるようになった場合をいう。

注2) 集計に際しては、現在と震災前の質問に対して無回答の人は除外した。

3) 精神健康

(1) 全体

精神健康を評価するためのスケール (K-6) を用いて、うつの疑いのある人の割合を算出したところ、その割合は 10% であった。年齢階級別、性別にみて分布には大きな差はなかった (表 4-3-1)。

表 4-3-1 現在の精神健康 (単位: %)

属性	精神健康			計	
	うつの可能性大	うつの可能性低い	無回答		
年齢階級	65 歳未満	9.2	89.5	1.3	100.0
	65 歳以上	10.3	83.6	6.1	100.0
	無回答	9.4	75.0	15.6	100.0
性	男性	9.0	87.3	3.7	100.0
	女性	10.8	85.2	4.1	100.0
	無回答	9.7	74.2	16.1	100.0
計	9.8	86.2	4.1	100.0	

注 1) 精神健康を評価する全項目に無回答で、評価ができなかった人を無回答としている。

注 2) % の合計が 100% とならない場合があるのは、小数点以下 2 位四捨五入しているためである。

(2) 震災に伴う健康破綻との関連

うつの疑いのある人の割合が、どのような要因によって影響を受けているかを、震災に伴う健康破綻との関連でみてみた。震災に伴う健康破綻には、火傷・外傷の経験の有無、震災以降の入院・通院が必要なほどの病気への罹患の有無、震災が原因での後遺症の有無を取り上げた。

火傷・外傷の経験の有無、震災以降の入院・通院が必要なほどの病気への罹患の有無、震災が原因での後遺症の有無のいずれも、経験があるという人の値 (15~22%) は、経験がないという人の値 (7~10%) と比較して 2 倍以上であった。これらの差はいずれも統計的に意味のある差であった (表 4-3-2)。

表 4-3-2 現在の精神健康と震災に伴う健康破綻との関連 (単位: %)

健康破綻	うつの疑いがある人の割合	
火傷・外傷の経験	あった	22.2 *
	なかった	9.7
震災以降の入院・通院が必要なほどの病気への罹患	あった	15.5 *
	なかった	7.2
身体に後遺症や病気が残る	ある	22.4 *
	ない	7.5

注 1) 震災に伴う健康破綻の項目は、無回答のものを除外している。

注 2) 割合の後に記されている記号 (*) は、健康破綻の有無別にみた割合の差が、統計的にみて意味があるか否かを評価し、意味があることを示している。

(3) 震災の家族への影響との関連

うつの疑いのある人の割合が、震災によって家族が亡くなった経験の有無、あるいは震災によって家族が重症を負ったり、障がい者になった経験の有無によって影響を受けるかをみてみた。震災によって家族が亡くなった経験がある人、あるいは震災によって家族が重症を負ったり、障がい者になった経験がある人では、その割合が高い傾向にあったが、統計的に意味のある差とはいえなかった（表 4-3-3）。

表 4-3-3 現在の精神健康と震災に伴う家族への影響との関連（単位：％）

家族への影響		うつの疑い がある人の割合
家族が死亡	あった	12.3
	なかった	10.1
家族に重傷を負ったり、障がい者になる	あった	19.2
	なかった	10.0

注 1) 震災に伴う家族への影響の項目は、無回答のものを除外している。

注 2) 割合の後に記されている記号 (*) は、家族への影響の有無別にみた割合の差が、統計的にみて意味があるか否かを評価し、意味があることを示している。

(4) 心理への影響との関連

うつの疑いのある人の割合が、震災時の恐怖の程度、震災時に家族の安否情報がなく不安であったか否か、震災時の死亡者や重症者の目撃の有無、震災後の救助活動の有無によって影響を受けているか否かをみてみた。

震災時の恐怖の程度が強かった人、震災時に家族の安否情報がなく不安であった人、震災時に死者や大けがをした人を目撃した人では、うつの疑いのある人の割合が 10～16％で、そうでない人の 2 倍近い値であった。これらの差はいずれも統計的に意味のある差であった（表 4-3-4）。

表 4-3-4 現在の精神健康と震災の心理への影響との関連（単位：％）

心理への影響		うつの疑い がある人の割合
震災時の恐怖の程度	非常に恐ろしかった／ 恐ろしかった	10.9*
	少し恐ろしかった／あ まり恐ろしくなかった	6.3
	／平静だった	
震災時の家族の安否情報 がなく不安であったか否か	不安であった	13.2*
	不安でなかった	7.5
震災時の死者や大けがをし た人の目撃の有無	目撃した	16.4*
	目撃しなかった	9.7
被災者の救助	携わった	12.7
	携わらなかった	9.8

注 1) 震災に伴う家族への影響の項目は、無回答のものを除外している。

注 2) 割合の後に記されている記号 (*) は、家族への影響の有無別にみた割合の差が、統計的にみて意味があるか否かを評価し、意味があることを示している。

(5) 物理的被害との関連

うつの疑いのある人の割合が、家屋への被害の程度、現在における居住場所によって影響を受けているか否かをみてみた。

家屋被害が「全壊」あるいは「半壊」であった人、現在の居住場所が定住できる場所でなかったり、定住できるところではあるが移転せざるを得なかった人では、うつの疑いのある人の割合がそれぞれ13%と17%で、そうでない人の値（それぞれ10%程度）よりも高かった。これらの差はいずれも統計的に意味のある差であった（表4-3-5）。

表 4-3-5 現在の精神健康と物理的被害との関連 (単位：%)

物理的被害		うつの疑い がある人の割合
家屋への影響	全壊・半壊	13.4 *
	一部損壊、被害なし	9.4
現在の居住場所	定住できる場所に住んでい ない／定住できるところで はあるが移転した	16.5 *
	震災前と同じ	9.8

注1) 震災に伴う家族への影響の項目は、無回答のものを除外している。

注2) 割合の後に記されている記号(*)は、家族への影響の有無別にみた割合の差が、統計的にみて意味があるか否かを評価し、意味があることを示している。

(6) 生活への影響との関連

前述のように、本調査では生活への影響は7項目で調べている。ここでは、個別項目の影響をみるのではなく、いくつの項目を経験しているか、その個数が精神健康に与える影響をみることにした。

影響があったとした項目数がある割合に与える効果については、「なし」が6%、「1項目」が13%、「2項目」が14%、「3項目」が19%というように、項目数が多いほどうつの疑いがあるという割合が高い傾向がみられた。「5項目以上」では34%となった（表4-3-6）。

表 4-3-6： 現在の精神健康と物理的被害との関連 (単位：%)

生活への影響	うつの可能性 がある人の割合
なし	6.1*
1項目	12.9
2項目	14.2
3項目	18.6
4項目	27.5
5項目以上	34.1

注1) 震災に伴う家族への影響の項目は、無回答のものを除外している。

注2) 割合の後に記されている記号(*)は、家族への影響の有無別にみた割合の差が、統計的にみて意味があるか否かを評価し、意味があることを示している。

(7) 震災による医療受診への影響との関連

うつの疑いのある人の割合が、透析の未実施の回数、震災による透析医療機関やその他の医療機関の変更の有無によって異なるか否かをみてみた。

震災による透析未実施の回数が2回以上の人では、うつの疑いのある人の割合が15%以上であり、それ未満の10%程度よりもかなり高かった。この差は統計的に意味のあるものであった。透析医療機関の変更、それ以外の医療機関の変更については、うつの疑いのある人の割合に対して大きな効果はなかった(表4-3-7)。

表4-3-7：現在の精神健康と震災による医療受診への影響との関連 (単位：%)

医療機関の変更		うつの疑い がある人の割合
透析の未実施の回数	3回以上	15.2 *
	2回	17.6
	1回	9.3
	0回	9.0
透析医療機関の変更	変更あり	12.9
	変更なし	9.3
他の医療機関の変更	変更あり	18.6
	変更なし	9.7

注1) 震災に伴う家族への影響の項目は、無回答のものを除外している。

注2) 割合の後に記されている記号(*)は、家族への影響の有無別にみた割合の差が、統計的にみて意味があるか否かを評価し、意味があることを示している。

4) 心的外傷後ストレス障害 (Posttraumatic Stress Disorder; PTSD)

(1) 全体

PTSD を評価するためのスケールを用いて、PTSD の疑いのある人の割合を算出したところ、その割合は31%であった。年齢階級別にみると65歳以上では65歳未満と比較して、性別でみると男性と比較して、PTSD の疑いのある人の割合が高かった (表 4-4-1)。

表 4-4-1: PTSD の疑い (単位: %)

属性	PTSD		計	
	PTSD の 疑い大	PTSD の 疑い小		
年齢階級	65 歳未満	27.3	72.7	100.0
	65 歳以上	34.3	65.7	100.0
	無回答	28.1	71.9	100.0
性	男性	27.4	72.6	100.0
	女性	35.7	64.3	100.0
	無回答	29.0	71.0	100.0
	計	31.0	69.0	100.0

注 1) PTSD をスクリーニングするための項目の中で無回答であったものは、0 を配点し、過大評価を防止した。

注 2) % の合計が 100% とならない場合があるのは、小数点以下 2 位四捨五入しているためである。

(2) 震災に伴う健康破綻との関連

PTSD の疑いのある人の割合に関連する要因を、震災に伴う健康破綻との関連でみてみた。震災に伴う健康破綻としては、火傷・外傷の経験の有無、震災以降の入院・通院が必要なほどの病気への罹患の有無、震災が原因での後遺症の有無を取り上げた。

火傷・外傷の経験の有無、震災以降の入院・通院が必要なほどの病気への罹患の有無、震災が原因での後遺症の有無のいずれも、経験があるという人の値 (42~64%) は、経験がないという人の値 (26~30%) の 2 倍程であった。これらの差はいずれも統計的に意味のある差であった (表 4-4-2)。

表 4-4-2: PTSD と震災に伴う健康破綻との関連 (単位: %)

健康破綻	PTSD の疑い がある人の割合	
火傷・外傷の経験	あった	63.8 *
	なかった	30.2
震災以降の入院・通院が 必要な病気への罹患	あった	41.6 *
	なかった	26.9
後遺症	ある	56.0 *
	ない	27.1

注 1) 震災に伴う健康破綻の項目は、無回答のものを除外している。

注 2) 割合の後に記されている記号 (*) は、健康破綻の有無別にみた割合の差が、統計的にみて意味があるか否かを評価し、意味があることを示している。

(3) 震災の家族への影響との関連

PTSDの疑いのある人の割合が、震災によって家族が亡くなった経験の有無、あるいは震災によって家族が重症を負ったり、障がい者になった影響を受けるか否かをみてみた。震災によって家族が亡くなった経験がある人、あるいは震災によって家族が重症を負ったり、障がい者になった経験がある人では、PTSDの疑いがある割合がそれぞれ50%以上であったが、経験のない人では30%程度であり、この差は統計的に意味のあるものであった(表4-4-3)。

表4-4-3: PTSDと震災に伴う家族への影響 (単位: %)

家族への影響		PTSDの疑いがある人の割合
家族が死亡	あった	50.8 *
	なかった	30.4
家族が重傷を負ったり、障がい者になる	あった	55.2 *
	なかった	30.7

注1) 震災に伴う家族への影響の項目は、無回答のものを除外している。

注2) 割合の後に記されている記号(*)は、家族への影響の有無別にみた割合の差が、統計的にみて意味があるか否かを評価し、意味があることを示している。

(4) 心理への影響との関連

PTSDの疑いのある人の割合が、震災時の恐怖の程度、震災時に家族の安否情報がなく不安であったか否か、震災時の死亡者や重症者の目撃の有無、震災後の救助活動の有無によって影響を受けているか否かをみてみた。

震災時の恐怖の程度が強かった人、震災時に家族の安否情報がなく不安であった人、震災時に死者や大けがをした人を目撃した人では、いずれもPTSDの疑いのある人の割合が35%以上で、そうでない人の2倍近い値であった(表4-4-4)。これらの差はいずれも統計的に意味のある差であった(表4-4-4)。

表4-4-4: PTSDと震災の心理への影響との関連 (単位: %)

心理への影響		PTSDの疑いがある人の割合
震災時の恐怖の程度	非常に恐ろしかった／恐ろしかった	35.9*
	少し恐ろしかった／あまり恐ろしくなかった	11.0
	／平静だった	
震災時の家族の安否情報がなく不安であったか否か	不安であった	40.3*
	不安でなかった	23.7
震災時の死者や大けがをした人を目撃の有無	目撃した	53.0*
	目撃しなかった	29.3
被災者の救助	携わった	42.9*
	携わらなかった	30.1

注1) 震災に伴う家族への影響の項目は、無回答のものを除外している。

注2) 割合の後に記されている記号(*)は、家族への影響の有無別にみた割合の差が、統計的にみて意味があるか否かを評価し、意味があることを示している。

(5) 物理的被害との関連

PTSDの疑いのある人の割合が、家屋への被害の程度、現在における居住場所によって影響を受けているか否かをみてみた。

家屋被害が「全壊」あるいは「半壊」であった人、現在の居住場所が定住できる場所でなかったり、定住できるところに移転したが、移転をせざるを得なかった人では、PTSDの疑いのある人の割合がそれぞれ41%と50%で、そうでない人の値（それぞれ30%程度）よりも高かった（表4-4-5）。これらの差はいずれも統計的に意味のある差であった（表4-4-5）。

表 4-4-5： PTSD と物理的被害との関連 （単位：％）

物理的被害	PTSD の疑い がある人の割合
家屋への影響	
全壊・半壊	40.7 *
一部損壊、被害なし	28.9
現在の居住場所	
定住できる場所に住んでい ない／定住できるところに 移転した	49.5 *
震災前と同じ	30.3

注1) 震災に伴う家族への影響の項目は、無回答のものを除外している。

注2) 割合の後に記されている記号(*)は、家族への影響の有無別にみた割合の差が、統計的にみて意味があるか否かを評価し、意味があることを示したものである。

(6) 震災による生活への影響との関連

前述のように、震災による生活への影響は7項目で調べている。ここでは、個別の項目の影響をみるのではなく、いくつの項目を経験しているか、その個数の影響をみることにした。

PTSDの疑いがある人の割合に対して、震災による生活影響の項目数が与える効果を分析した結果、「なし」が22%、「1項目」が41%、「2項目」が52%、「3項目」が53%というように、項目数が多いほど疑いにある割合が高くなる傾向にあった。「5項目以上」では62%となった（表4-4-6）。

表 4-4-6 PTSD と生活への影響との関連 （単位：％）

生活に影響のあった項目数	PTSD の可能性 がある人の割合
なし	22.0 *
1項目	41.4
2項目	52.2
3項目	53.4
4項目	61.5
5項目以上	62.2

注1) 震災に伴う家族への影響の項目は、無回答のものを除外している。

注2) 割合の後に記されている記号(*)は、家族への影響の有無別にみた割合の差が、統計的にみて意味があるか否かを評価し、意味があることを示している。

(7) 震災による医療受診への影響との関連

PTSD の疑いのある人の割合が、透析の未実施の回数、震災による透析医療機関やその他の医療機関の変更の有無によって異なるか否かをみてみた。

震災によって透析未実施の回数が2回以上の人では、PTSD の疑いのある人の割合が48%であり、1回かそれ未満の人の割合(30%程度)よりもかなり高かった。この差は統計的にみて意味のあるものであった。透析医療機関の変更、他の医療機関の変更については、それぞれ経験のある人では PTSD の疑いのある人の割合はそれぞれ40%を超えており、経験のない人の30%程度よりもかなり高かった。この差は統計的に意味のあるものであった(表4-4-7)。

表 4-4-7 PTSD と震災による医療受診への影響との関連 (単位：%)

医療機関の変更		PTSD の可能性 がある人の割合
透析の未実施の回数	3回以上	47.5 *
	2回	37.2
	1回	28.5
	0回	29.7
透析医療機関の変更	変更あり	42.1
	変更なし	29.1
他の医療機関の変更	変更あり	47.7
	変更なし	31.1

注1) 震災に伴う家族への影響の項目は、無回答のものを除外している。

注2) 割合の後に記されている記号(*)は、家族への影響の有無別にみた割合の差が、統計的にみて意味があるか否かを評価し、意味があることを示している。

5. 震災への備え

1) 透析中の震災に対する対応

透析を受けているときに地震が発生した場合の対応については、「医療機関から口頭で説明を受けた」が50%、「医療機関からマニュアルなどの文書が配布された」が32%、「自分で対応を考えた」が22%であり、「対応は考えていない」は15%であった（表5-1-1）。各選択肢への回答分布は、年齢階級別、性別にみて大きな違いはなかった。

表5-1-1：透析中の震災に対する対応（単位：%）

属性	震災に対する対応					
	医療機関からマニュアルなどが文書配布された	医療機関から口頭で説明を受けた	自分で対応を考えた	対応は考えていない	無回答	
年齢階級	65歳未満	34.2	49.8	19.6	14.0	2.5
	65歳以上	29.9	49.8	24.4	16.2	6.5
	無回答	25.0	37.5	18.8	21.9	12.5
性	男性	30.7	50.0	24.1	14.9	3.4
	女性	33.6	49.3	19.5	15.5	6.3
	無回答	22.6	38.7	22.6	22.6	9.7
計	31.8	49.6	22.1	15.3	4.8	

注1) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

注2) 「医療機関からマニュアルなどの文書配布」「医療機関から口頭で説明を受けた」「自分で対応を考えた」については複数回答可。

2) 震災時にいつも利用している透析医療機関が利用できなくなった場合の対応

震災が発生し、いつも透析を受けている透析医療機関が利用できなくなったときの対応は、「医療機関から口頭で説明を受けた」が45%、「医療機関からマニュアルなどの文書が配布された」が25%、「自分で対応を考えた」が21%であり、「対応は考えていない」は22%であった（表5-2-1）。各選択肢への回答分布は、年齢階級別、性別にみて大きな違いはなかった。

表5-2-1：いつも利用している透析医療機関が利用できなくなった場合の対応（単位：%）

属性	震災に対する対応					
	医療機関からマニュアルなどが文書配布された	医療機関から口頭で説明を受けた	自分で対応を考えた	対応は考えていない	無回答	
年齢階級	65歳未満	26.3	44.2	19.1	22.5	3.4
	65歳以上	24.2	45.6	21.9	20.5	7.5
	無回答	15.6	37.5	21.9	28.1	15.6
性	男性	23.7	44.0	21.8	23.0	4.1
	女性	26.9	46.3	19.1	19.1	7.9
	無回答	19.4	35.5	22.6	32.3	9.7
計	25.0	44.8	20.7	21.5	5.8	

注1) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

注2) 「医療機関からマニュアルなどの文書配布」「医療機関から口頭で説明を受けた」「自分で対応を考えた」については複数回答可。

3) 通常利用している透析医療機関が利用できなくなったときの代替医療機関のあて

震災が発生し、透析を受けている医療機関が利用できない場合、代わりに透析を受けることができる透析医療機関のあてがあるか否かについては、「あてがある」という人が37%と半数に満たなかった(表5-3-1)。この割合は年齢階級別、性別にみて大きな差がなかった。

表 5-3-1： 震災時の代替医療機関のあての有無 (単位：%)

属性	あての有無			計	
	あてがある	あてがない	無回答		
年齢階級	65歳未満	39.0	59.9	1.1	100.0
	65歳以上	35.4	61.1	3.5	100.0
	無回答	31.2	62.5	6.2	100.0
性	男性	37.9	59.9	2.2	100.0
	女性	35.9	61.5	2.7	100.0
	無回答	35.5	61.3	3.2	100.0
	計	37.0	60.6	2.4	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

4) 震災時に利用可能な医療機関を探す方法の認知

震災が発生し、透析を受けている医療機関が利用できない場合、透析を受けることができる透析医療機関を探す方法を知っているか否かについては、「知っている」という人が42%と半数に満たなかった(表5-4-1)。この割合は年齢階級別、性別にみて大きな差がなかった。

表 5-4-1： 震災時の代替医療機関を探す方法の認知 (単位：%)

属性	認知の有無			計	
	知っている	知らない	無回答		
年齢階級	65歳未満	44.7	54.3	1.0	100.0
	65歳以上	39.8	57.5	2.7	100.0
	無回答	21.3	56.2	12.5	100.0
性	男性	45.1	53.3	1.7	100.0
	女性	38.0	59.6	2.4	100.0
	無回答	35.5	58.1	6.5	100.0
	計	41.9	56.0	2.1	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

5) 震災時に透析医療機関が利用できない場合の健康管理への認知

震災が発生し、透析を受けている医療機関が利用できず、1週間くらい透析を受けることができない場合の食事管理の方法についての認知については、「知っている」という人が46%と半数に満たなかった(表5-5-1)。この割合は年齢階級別にみると、65歳未満では55%であったのに対し、65歳以上では38%と大きな差がみられた。

表5-5-1：透析を受けることができない場合の食事管理への認知 (単位：%)

属性		認知の有無			計
		知っている	知らない	無回答	
年齢階級	65歳未満	54.6	44.4	1.1	100.0
	65歳以上	38.3	57.2	4.5	100.0
	無回答	43.8	46.9	9.4	100.0
性	男性	44.0	54.0	2.0	100.0
	女性	48.7	47.0	4.3	100.0
	無回答	32.3	61.3	6.5	100.0
	計	45.8	51.2	3.0	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

6) 震災時にケガなどで透析医療機関に通院できない場合の介助

震災が発生し、ケガなどで透析医療機関に通院できない場合に介助してくれる人のあてがあるか否かについては、「ある」という人が71%であった(表5-6-1)。この割合は年齢階級別、性別にみて大きな差はなかった。

表5-6-1：震災時ケガなどで通院できない場合の介助 (単位：%)

属性		介助の有無			計
		ある	ない	無回答	
年齢階級	65歳未満	71.2	28.1	0.7	100.0
	65歳以上	71.3	25.2	3.5	100.0
	無回答	56.2	31.2	12.5	100.0
性	男性	69.2	29.0	1.9	100.0
	女性	74.3	23.1	2.7	100.0
	無回答	48.4	38.7	12.9	100.0
	計	71.0	26.6	2.4	100.0

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

7) 外出時におけるダイアライザーの種類や血流量が記載された手帳の携帯

震災が発生した際には、いつも利用している透析医療機関以外で透析を受けることになる場合も多い。その際には、ダイアライザーの種類や血流量が記載された手帳を携帯していると、他の透析機関でも安全に透析を受けることができる。このような役割をもつ手帳をどのくらいの患者が携帯しているかについては、「いつも携帯／ときどき携帯」という人が63%であった(表5-7-1)。この割合は性別にみると、女性の方が67%と、男性(59%)よりも10ポイント程度高かった。

表 5-7-1： ダイアライザーの種類や血流量が記載された手帳の携帯 (単位：%)

属性	携帯の頻度			計	
	いつも携帯／ ときどき携帯	あまり携帯しない／ ほとんど携帯しない	無回答		
年齢階級	65歳未満	63.8	35.2	1.0	100.0
	65歳以上	61.3	36.1	2.6	100.0
	無回答	71.9	25.0	3.1	100.0
性	男性	59.1	39.3	1.6	100.0
	女性	67.2	30.7	2.2	100.0
	無回答	64.5	32.3	3.2	100.0
計	62.7	35.5	1.8	100.0	

注) %の合計が100%とならない場合があるのは、小数点以下2位を四捨五入しているためである。

8) 医療機関からの働きかけと震災への備え

透析機関が利用できなくなった場合の対応について、医療機関から文書か口頭で説明されているか否かによって、代替医療機関のあて、震災時に利用できる透析機関を探す方法。震災時に透析機関が利用できない場合の食事管理の方法、震災時にケガなどで通院できない場合の介護者のあて、外出時における手帳の携帯の頻度に差があるか否かをみてみた。

医療機関から文書か口頭で説明されている場合にはそうでない場合と比較して、代替医療機関のあてがある人、利用できる医療機関を探す方法を知っている人、透析が利用できない場合の食事管理の方法を知っている人、通院介助がある人、手帳を携帯している人の割合が高かった。そして、この割合の差は統計的にみて意味のあるものであった。

表 5-8-1： 震災への準備と医療機関からの働きかけとの関連 (単位：%)

属性	震災への備え					
	震災時の 代替医療機 関のあて (あてがあ る人の割合)	代替医療機関 の探索方法 (知っている 人の割合)	透析医療機 関が利用で きない場合 の食事管理 (知っている 人の割合)	ケガなどの場合 の通院介助 (ある割合)	手帳の携帯 (いつも/ときど きしている割合)	
透析医療機関が利用で きなかった場合の対応	医療機関から文 書や口頭で指示	45.4 *	51.5 *	56.3 *	75.0 *	67.5 *
	それ以外	26.1	29.0	33.0	69.2	58.0

注1) 震災への備えの各項目については、無回答は除いた%である。

注2) 割合の後に記されている記号(*)は、医療機関の働きかけにみた割合の差が、統計的にみて意味があるか否かを評価し、意味があることを示している。

IV 提言

1. 全体

1) 震災の継続的な影響に対する早期の対応策の必要性

直接的に被害にあった人は少なかった。しかし、本調査では、震災後2年が経過した現在においても、本人あるいは家族が直接被災するなどの被害に加えて、直接的に被害を被らない透析患者でも、震災の際の恐怖などの経験などが精神健康や PTSD に大きな影響をもたらしていたことがわかった。したがって、透析医療機関においては、直接的に被害にあった患者はもちろんのこと、直接的な被害に会わなかった患者も含め、震災経験を考慮した精神面でのケアが必要である。

以上の調査結果を今後の震災対策に生かすならば、透析患者の場合には、震災直後はもちろんのこと、その影響が数年間にわたって精神健康に継続的に影響する可能性があることを考慮し、透析患者に対しては震災直後からの精神的なケアを意識的に行っていくことが必要である。

2) 震災への準備のためにすべきこと

本調査では、震災に遭遇した時の事前準備がどの程度行われているかを、代替医療機関のあて、震災時に利用できる透析機関を探す方法の認知、震災時に透析機関が利用できない場合の健康管理の認知、震災時にケガなどで通院できない場合の介護者のあて、外出時における手帳の携帯の各側面から調べた。調査では、震災の被害が大きかった3県の患者でさえ、その準備が十分とはいえないことがわかった。その実施に大きな影響を与えていたのは、震災の際の対処についての医療機関からの説明であった。患者会のルートなどを活用して震災への準備についての啓もう活動を行うとともに、透析医療機関からも利用者に対する積極的な働きかけが必要である。

2. 患者の立場から

1) 災害時に受けるストレス

震災から2年経過した時点で当会加盟の被災県組織に協力を得て今回の調査を行った。PTSDへの罹患については、ある程度の予測はしていたが調査結果は想像を遥かに上回るものであった。患者に対する医療的サポートの検証については、透析医療機関及び関係学会、並びに行政をはじめとする関係機関・団体に委ねることとし、患者の立場で被災患者にできることを検証したい。

アンケートの中で特記すべき点は「家族の安否情報がなく不安であった」が43%もあったということである(表2-3-3)。この数値は、震災の経験に対する設問の中で地震や津波の恐怖に次ぐ高い数値であり、家族の安否が確認できないことは被災者にとってかなり大きなストレスであると考えられる。また、安否情報がなく不安だったと答えた方の40%がPTSDへの罹患の可能性がある(表4-4-4)というデータからも安否確認の情報の有無が被災患者のその後の状況に大きく影響すると言える。しかしながら、災害直後の被災地では情報が混乱しており十分な情報収集は困難である。被災地から離れた地域からでも患者の安否が確認でき、なおかつ家族に安否情報を知らせることのできるシステムを構築する必要がある。

阪神淡路大震災をはじめ、過去の大規模災害時においても透析医療関係者の献身的努力によって、被災患者の透析治療が確保されてきたことは患者にとって大変ありがたいことではあるが、被災患者とその家族等の被災状況下での治療生活全体を考えた時、患者の安否確認と施設・治療情報を提供するシステムの構築は極めて重要な課題であると考えられる。

震災により透析未実施の回数とPTSDへの罹患の割合との関連をみると3回以上未実施であった患者の罹患割合が48%であった(表4-4-7)。透析患者の場合、透析の未実施が「死」へ直結するため、震災の恐怖に加えて、さらにストレスを感じるのではないかと推測される。

今回の調査で透析患者の場合は震災に対するストレスが2つあることが分かった。1つは、恐怖・不安・悲しみといった震災そのもののストレスである。もう1つは、震災から逃れたあとの透析治療を確保することのストレスである。透析を受けられる施設が見つけられない、施設までの移動手段がない、避難所で透析患者であると言い出せない等さまざまな理由から透析ができなかったという報告もある。透析患者にとって透析治療は命をつなぐ医療である。それが受けられなければ体中に尿毒素が増え、体調も悪くなる。そのことが震災の恐怖や不安と匹敵するほどのストレスとなる。前述した安否確認に加えて、被災患者に透析が受けられる施設の情報を知らせるシステム、透析を受けられずにいる患者を見つけるシステムの構築が急務であると言える。

2) 患者自身の災害対策

今回の調査で震災時の代替医療機関のあてに対しては61%が「ない」と回答し(表5-3-1)、代替医療機関の探し方を56%が「知らない」と回答している(表5-4-1)。また、透析を受けられない場合の食事管理についても51%が「知らない」と回答している(表5-5-1)。6割前後の患者が、普段透析を受けている医療機関が被災した場合に透析を受けることが困難になり、半数は食事管理のできない状況であることが示された。災害時に誰でもが透析のできる医療機関を探すことのできるシステムを構築し、広く認知させる必要がある。また、災害時の食事管理についても日頃からの意識づけが必要である。

前段の調査結果と合わせて考えると災害対策は、単に災害時のみの対策ではなく、日常の治療生活から準備してこそ災害時にその効力を発揮することが出来る。こうした患者個々の意識と行動を常態化し高めることが重要である。

3) 患者によるピアサポート

震災から2年たった現在でさえ PTSD への罹患の可能性が 31%もあり (表 4-4-1)、透析患者に対する精神的ケアを継続して行っていく必要がある。特に被災後の透析確保についてのストレスは透析患者特有のストレスであり、なかなか一般には理解し難いストレスである。精神的ケアを行う場合にもそのことに十分に注意をはらう必要がある。できることならば、透析患者によるピアサポートができればより望ましい。患者会の組織内で被災後の精神的ケアや食事管理の技能をもつ会員によるサポートができれば被災患者に対して大きな支援活動ができる。今後の患者会の災害対策の一環としてそのような技能の習得やマニュアルの整備にも取り組んでいくべきではないだろうか。

3. 医師の立場から

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、今までに経験したことのないような地震被害、津波被害、福島原発事故被害を私共にもたらしました。死者15,867人、行方不明者2,906人（2012年7月18日現在、厚労省報告書）にも及ぶという大惨事であり、2年半を経過して未だ被災により自宅、定住できる家へ戻れない人も多く（今回の集計で9%）、福島原発事故では戻るあてを失った人も多くいます。

そのような状況のなかで、アンケートにご協力いただいた岩手県・宮城県・福島県の患者さんに心から感謝いたします。

1) PTSD（外傷後ストレス障害）の合併について

今回のアンケート結果から PTSD の発症率は31%と多い。被災後北海道に集団疎開した宮城県気仙沼地区80人のグループ集計では、41%とさらに多い結果の報告もなされております（戸澤修平、日本透析医会雑誌、2012）。この発症率の違いはアンケート集計時期（2年半のズレ）によるものか、知らない地域へ集団疎開という特殊な環境の変化によるものか明らかではありませんが、災害による PTSD 発症は避けられないことであると認識せざるを得ません。大震災が心に及ぼす影響はその直後に止まらず中期的かつ長期的に尾を引くことを心に止めて、対策とケア手段を練る必要があると考えます。

今回行われた PTSD の質問形式では PTSD とうつ症状の内容が重複するため、PTSD とうつ症状とが合併する比率は多く、阪神淡路大震災では45%との報告もされております（飛鳥居 望、PTSD と抑うつ、精神科治療学、1998）。今回の調査では PTSD 罹患557人中124人（22%）、北海道に避難した HD 患者70人の集計（PTSD 34人）からは7人（20%）と阪神淡路大震災の一般人集計と比べ低い結果でした。これは透析患者さんの定期的な透析、自己管理などのストレスに対する抵抗性が通常から加わっているためなのでしょうか。透析患者の皆さんが、逆境にめげず強いということでありましょうか。この点に関しては、十分な検証を要するものでしょう。

PTSD の大きなストレッサーとしては、①火傷・外傷の経験（64%）、②後遺症・病気が残存（56%）、③家族が重傷・障害者になる（55%）、④震災時の死者・大けがの目撃（53%）⑤生活への影響（7項目中3項目陽性）53%、⑥家族が死亡（51%）、⑦定住できる場所に住んでいない（50%）、⑧透析未実施3回以上（48%）、⑨被災者の救助に携わった（43%）、⑩入院・通院が必要な罹患（42%）、⑪家屋の全壊・半壊（41%）、⑫家族の安否情報（40%）、⑬大きな恐怖の経験（36%）などが挙げられています。これらのうち、透析施設としてできることは、透析未実施の回数を減らせるように施設の防災・減災対策および施設情報の提供に協力することでありましょう。

また、被災後「心配事を相談できる人」、「いたわりや思いやりを示してくれている人」の減少（10%）は PTSD 発症、心のケアと無関係とは考えられず、災害時において更なる医療スタッフの関わりが必要になると考えられます。

2) 震災への備えについて

今回アンケートにご協力いただいた岩手県、宮城県、福島県の透析施設は、災害対策について被災

前より熱心に実施していた経緯があり、施設側の災害対策はかなりできていたように考えられます。そして患者さんへの働きかけも、災害時の代替医療機関の認識（45%）、代替医療機関の探索方法認識（51%）、食事管理認識（56%）、手帳の携帯（68%）などの調査結果から、施設からの指導、支援、情報提供はかなり役立ったと解釈できます。今後は他の地域でも透析施設の防災・減災対策のレベルアップと患者さん・ご家族への情報提供など事前準備の周知徹底の繰り返しを期したいと考えております。

V 単純集計結果

◎まず、あなたの健康状態についてお伺いします。

問1 あなたが腎不全となった原因疾患は何ですか。

慢性糸球体腎炎	糖尿病性腎症	その他	無回答	合計
876 (47.5)	511 (27.7)	380 (20.6)	78 (4.2)	1845 (100.0)

問2 透析年数は何年ですか。

5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上	無回答	合計
548 (29.7)	495 (26.8)	502 (27.2)	214 (11.6)	76 (4.1)	10 (0.5)	1845 (100.0)

問3 全般的にいて、あなたの現在の健康状態はいかがですか。

よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答	合計
190 (10.3)	419 (22.7)	793 (43.0)	384 (20.8)	46 (2.5)	13 (0.7)	1845 (100.0)

問4 現在、ふだんの生活はどの程度できますか。

現在の生活機能					無回答	合計
どこへでも楽に一人で行ける	楽ではないが、大体どこへでも一人で行ける	家の中では、ほぼ不自由なく動き、となり近所には一人でかけている	気が向いた時、庭先に出たり、家の中の簡単な仕事ならしている	一日中ほとんど寝たきり、またはそれに近い状態		
524 (28.4)	546 (29.6)	306 (16.6)	305 (16.5)	121 (6.6)	43 (2.3)	1845 (100.0)

問5 過去1ヶ月の間、あなたがどのように感じていたかお尋ねします。

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	全くない	無回答	合計
神経過敏に感じましたか(過去1か月のこころの状態)	106 (5.7)	99 (5.4)	472 (25.6)	516 (28.0)	520 (28.2)	132 (7.2)	1845 (100.0)
絶望的だと感じましたか	58 (3.1)	60 (3.3)	312 (16.9)	495 (26.8)	768 (41.6)	152 (8.2)	1845 (100.0)
そわそわしたり、落ち着きなく感じましたか	29 (1.6)	52 (2.8)	307 (16.6)	475 (25.7)	821 (44.5)	161 (8.7)	1845 (100.0)
気分が沈みこんで、何が起っても気が晴れないように感じましたか	54 (2.9)	85 (4.6)	337 (18.3)	609 (33.0)	619 (33.6)	141 (7.6)	1845 (100.0)
何をしても骨折りだと感じましたか	93 (5.0)	133 (7.2)	372 (20.2)	590 (32.0)	502 (27.2)	155 (8.4)	1845 (100.0)
自分は価値のない人間だと感じましたか	95 (5.1)	56 (3.0)	260 (14.1)	411 (22.3)	867 (47.0)	156 (8.5)	1845 (100.0)

◎震災への備えについてお伺いします。

問6 透析を受けているときに地震が発生した場合の対応について、透析医療機関から説明を受けましたか。(複数回答)

	選択	非選択	無回答	合計
医療機関からマニュアルなどの文書が配布された	587 (31.8)	1170 (63.4)	88 (4.8)	1845 (100.0)
医療機関から口頭で説明を受けた	915 (49.6)	842 (45.6)	88 (4.8)	1845 (100.0)
自分で対応を考えていた	408 (22.1)	1349 (73.1)	88 (4.8)	1845 (100.0)
対応は考えていない	282 (15.3)	1475 (79.9)	88 (4.8)	1845 (100.0)

問7 震災が発生し、あなたが透析を受けている医療機関が利用できなくなった場合、どのように対応したらよいかについて透析医療機関から説明を受けましたか。(複数回答)

	選択	非選択	無回答	合計
医療機関からマニュアルなどの文書が配布された	461 (25.0)	1277 (69.2)	107 (5.8)	1845 (100.0)
医療機関から口頭で説明を受けた	827 (44.8)	911 (49.4)	107 (5.8)	1845 (100.0)
自分で対応を考えていた	381 (20.7)	1357 (73.6)	107 (5.8)	1845 (100.0)
対応は考えていない	397 (21.5)	1341 (72.7)	107 (5.8)	1845 (100.0)

問8 震災が発生し、あなたが透析を受けている医療機関が利用できない場合、透析を受けることができる透析医療機関のあてがありますか。

あてがある	あてがない	無回答	合計
682 (37.0)	1118 (60.6)	45 (2.4)	1845 (100.0)

問9 震災が発生した場合など、利用可能な透析医療機関を探す方法あるいは手段を知っていますか。

知っている	知らない	無回答	合計
773 (41.9)	1034 (56.0)	38 (2.1)	1845 (100.0)

問10 震災が発生し、透析医療機関が利用できず、1週間くらい透析を受けられない場合、食事管理をどうしたらよいか、ご存知ですか。

知っている	知らない	無回答	合計
845 (45.8)	944 (51.2)	56 (3.0)	1845 (100.0)

問11 震災が発生した後、ケガなどで自分で透析医療機関に行くことができない場合、通院介助してくれる人のあてがありますか。

ある	ない	無回答	合計
1310 (71.0)	491 (26.6)	44 (2.4)	1845 (100.0)

問12 外出時には、普段使用しているダイヤライザーの種類や血流量、定期的な透析検査データ等が記載された「手帳」(たとえば、緊急時透析患者手帳のようなもの)などを携帯していますか。

いつも携帯している	ときどき携帯している	あまり携帯していない	ほとんど携帯していない	無回答	合計
952 (51.6)	204 (11.1)	190 (10.3)	465 (25.2)	34 (1.8)	1845 (100.0)

◎日ごろの生活についてお伺いします。

問13 現在、心配ごとや困りごとがあるとき、次の人たちはどのくらい相談にのってくれますか。

	かなり のってくれる	いづらか のってくれる	少ししか のってくれない	全く のってくれない	該当者が いない	無回答	合計
配偶者/パートナー	874 (47.4)	335 (18.2)	106 (5.7)	45 (2.4)	301 (16.3)	184 (10.0)	1845 (100.0)
配偶者/パートナー以外の 同居家族	487 (26.4)	382 (20.7)	168 (9.1)	64 (3.5)	427 (23.1)	317 (17.2)	1845 (100.0)
別居の家族や親族	498 (27.0)	520 (28.2)	243 (13.2)	126 (6.8)	163 (8.8)	295 (16.0)	1845 (100.0)
近所の人	105 (5.7)	310 (16.8)	215 (11.7)	327 (17.7)	511 (27.7)	377 (20.4)	1845 (100.0)
友人	220 (11.9)	422 (22.9)	252 (13.7)	189 (10.2)	408 (22.1)	354 (19.2)	1845 (100.0)

問14 では、日頃の生活でちょっとした手助けが必要なとき、次の人たちはどのくらい手助けをしてくれますか。

	かなり してくれる	いづらか してくれる	少ししか してくれない	全く してくれない	該当者が いない	無回答	合計
配偶者/パートナー	990 (53.7)	248 (13.4)	79 (4.3)	35 (1.9)	292 (15.8)	201 (10.9)	1845 (100.0)
配偶者/パートナー以外の 同居家族	572 (31.0)	352 (19.1)	126 (6.8)	58 (3.1)	427 (23.1)	310 (16.8)	1845 (100.0)
別居の家族や親族	452 (24.5)	455 (24.7)	229 (12.4)	188 (10.2)	204 (11.1)	317 (17.2)	1845 (100.0)
近所の人	97 (5.3)	293 (15.9)	203 (11.0)	374 (20.3)	493 (26.7)	385 (20.9)	1845 (100.0)
友人	171 (9.3)	361 (19.6)	227 (12.3)	254 (13.8)	453 (24.6)	379 (20.5)	1845 (100.0)

問15 次の人たちは、あなたにいたりや思いやりをどのくらい示してくれますか。

	かなり示してくれる	いづらか示してくれる	少ししか示してくれない	全く示してくれない	該当者がいない	無回答	合計
配偶者/パートナー	962 (52.1)	260 (14.1)	97 (5.3)	37 (2.0)	291 (15.8)	198 (10.7)	1845 (100.0)
配偶者/パートナー以外の同居家族	541 (29.3)	396 (21.5)	128 (6.9)	54 (2.9)	416 (22.5)	310 (16.8)	1845 (100.0)
別居の家族や親族	525 (28.5)	503 (27.3)	219 (11.9)	116 (6.3)	171 (9.3)	311 (16.9)	1845 (100.0)
近所の人	120 (6.5)	356 (19.3)	238 (12.9)	308 (16.7)	443 (24.0)	380 (20.6)	1845 (100.0)
友人	225 (12.2)	418 (22.7)	230 (12.5)	193 (10.5)	409 (22.2)	370 (20.1)	1845 (100.0)

問16 現在のあなたの住所地をお答えください。

現在の住所地(県)

岩手県	宮城県	福島県	その他	無回答	合計
379 (20.5)	627 (34.0)	825 (44.7)	4 (0.2)	10 (0.5)	1845 (100.0)

問17 あなたと同居している家族は、あなた自身を含めて何人ですか。

一人暮らし	2人	3人	4人	5人	6人	7人
180 (9.8)	679 (36.8)	420 (22.8)	206 (11.2)	149 (8.1)	93 (5.0)	50 (2.7)
8人	9人	10人	特定不可	無回答	合計	
16 (0.9)	2 (0.1)	3 (0.2)	33 (1.8)	14 (0.8)	1845 (100.0)	

付問 あなたと同居している家族の方はどなたですか。あなたからみた続柄でお答えください。

同居家族	選択	非選択	無回答	非該当	合計
配偶者(内縁関係も含む)	1223 (66.3)	377 (20.4)	51 (2.8)	194 (10.5)	1845 (100.0)
子ども	784 (42.5)	802 (43.5)	65 (3.5)	194 (10.5)	1845 (100.0)
子どもの配偶者	215 (11.7)	1371 (74.3)	65 (3.5)	194 (10.5)	1845 (100.0)
孫	251 (13.6)	1335 (72.4)	65 (3.5)	194 (10.5)	1845 (100.0)
孫の配偶者	17 (0.9)	1569 (85.0)	65 (3.5)	194 (10.5)	1845 (100.0)
親(義父母も含む)	251 (13.6)	1335 (72.4)	65 (3.5)	194 (10.5)	1845 (100.0)
祖父母	32 (1.7)	1554 (84.2)	65 (3.5)	194 (10.5)	1845 (100.0)
兄弟・姉妹	88 (4.8)	1498 (81.2)	65 (3.5)	194 (10.5)	1845 (100.0)
その他	35 (1.9)	1552 (84.1)	64 (3.5)	194 (10.5)	1845 (100.0)

問18 あなたは現在お仕事をしていますか。

働いている(自営・パート含む)	休職中である	働いていない(学生・専業主婦・求職中含む)	特定不可	無回答	合計
420 (22.8)	35 (1.9)	1260 (68.3)	39 (2.1)	91 (4.9)	1845 (100.0)

現在の職業

経営者・役員	常時雇用されている一般従業者	派遣社員	契約社員・嘱託	臨時雇用・パート・アルバイト	自営業主・自由業者	家族従業者	内職
72 (3.9)	115 (6.2)	3 (0.2)	28 (1.5)	78 (4.2)	124 (6.7)	31 (1.7)	5 (0.3)
無回答	非該当	合計					
38 (2.1)	1351 (73.2)	1845 (100.0)					

問19 現在の住まいは次のどれにあたりますか。

持ち家(一戸建て、分譲マンション)	借家・民間のアパート・マンション	公団・公営の賃貸アパート、住宅	下宿・間借り	仮設住宅	その他	無回答	合計
1486 (80.5)	176 (9.5)	84 (4.6)	8 (0.4)	49 (2.7)	27 (1.5)	15 (0.8)	1845 (100.0)

問20 過去一年間のあなたのお宅の収入は、税込みでいくくらいでしたか。

[株式配当などすべての収入について、臨時収入、副収入も含める]

120万円未満	120～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～800万円未満	800～1,000万円未満	1,000万円以上
295 (16.0)	705 (38.2)	282 (15.3)	143 (7.8)	99 (5.4)	77 (4.2)	55 (3.0)	43 (2.3)
無回答	合計						
146 (7.9)	1845 (100.0)						

問21 以下の項目は、いずれも、強いストレスを伴うような出来事に巻き込まれた方々に、後になって生じることのあるものです。
東日本大震災に関して、この1週間では、1)から22)のそれぞれの項目に関して、どの程度強く悩まされましたか。

	全く 悩まされない	少し 悩まされる	中くらい 悩まされる	かなり 悩まされる	非常に 悩まされる	無回答	合計
どんなきっかけでも、東日本大震災を思い出すと、その時の気持ちがぶりかえしてくる	333 (18.0)	758 (41.1)	364 (19.7)	205 (11.1)	104 (5.6)	81 (4.4)	1845 (100.0)
睡眠の途中で目が覚めてしまう	691 (37.5)	569 (30.8)	277 (15.0)	148 (8.0)	63 (3.4)	97 (5.3)	1845 (100.0)
別のことをしていても、東日本大震災が頭から離れない	753 (40.8)	640 (34.7)	209 (11.3)	96 (5.2)	38 (2.1)	109 (5.9)	1845 (100.0)
イライラして、怒りっぽくなる	906 (49.1)	491 (26.6)	201 (10.9)	88 (4.8)	48 (2.6)	111 (6.0)	1845 (100.0)
東日本大震災について考えたり思い出す時は、なんとか気を落ち着かせようとしている	636 (34.5)	722 (39.1)	276 (15.0)	78 (4.2)	21 (1.1)	112 (6.1)	1845 (100.0)
考えるつもりはないのに、東日本大震災を覚えてしまうことがある	651 (35.3)	693 (37.6)	255 (13.8)	111 (6.0)	40 (2.2)	95 (5.1)	1845 (100.0)
東日本大震災は、実際に起きなかったとか、現実のことでなかったような気がする	603 (32.7)	536 (29.1)	334 (18.1)	161 (8.7)	79 (4.3)	132 (7.2)	1845 (100.0)
東日本大震災を思い出させるものには近よらない	770 (41.7)	517 (28.0)	264 (14.3)	102 (5.5)	45 (2.4)	147 (8.0)	1845 (100.0)
東日本大震災の場面が、いきなり頭にうかんでくる	791 (42.9)	529 (28.7)	220 (11.9)	114 (6.2)	67 (3.6)	124 (6.7)	1845 (100.0)
神経が敏感になっていて、ちょっとしたことでどきどきしてしまう	719 (39.0)	552 (29.9)	231 (12.5)	144 (7.8)	84 (4.6)	115 (6.2)	1845 (100.0)
東日本大震災は考えないようにしている	673 (36.5)	609 (33.0)	282 (15.3)	103 (5.6)	46 (2.5)	132 (7.2)	1845 (100.0)
東日本大震災については、まだいろいろな気持ちがあるが、それには触れないようにしている	686 (37.2)	607 (32.9)	285 (15.4)	103 (5.6)	34 (1.8)	130 (7.0)	1845 (100.0)
東日本大震災についての感情は、マヒしたようである	704 (38.2)	574 (31.1)	282 (15.3)	113 (6.1)	35 (1.9)	137 (7.4)	1845 (100.0)
気がつくど、まるで東日本大震災の時にもどってしまったかのようにふるまったり、感じたりすることがある	1013 (54.9)	452 (24.5)	166 (9.0)	61 (3.3)	31 (1.7)	122 (6.6)	1845 (100.0)
寝つきが悪い	759 (41.1)	461 (25.0)	232 (12.6)	143 (7.8)	114 (6.2)	136 (7.4)	1845 (100.0)
東日本大震災について、感情が強くこみ上げてくることがある	724 (39.2)	524 (28.4)	251 (13.6)	135 (7.3)	85 (4.6)	126 (6.8)	1845 (100.0)
東日本大震災を何とか忘れようとしている	734 (39.8)	547 (29.6)	266 (14.4)	101 (5.5)	52 (2.8)	145 (7.9)	1845 (100.0)
ものごとに集中できない	904 (49.0)	458 (24.8)	213 (11.5)	80 (4.3)	33 (1.8)	157 (8.5)	1845 (100.0)
東日本大震災を思い出すと、身体が反応して、汗ばんだり、息苦しくなったり、むかむかしたり、どきどきすることがある	1108 (60.1)	373 (20.2)	146 (7.9)	64 (3.5)	29 (1.6)	125 (6.8)	1845 (100.0)
東日本大震災についての夢を見る	1150 (62.3)	369 (20.0)	125 (6.8)	60 (3.3)	19 (1.0)	122 (6.6)	1845 (100.0)
警戒して用心深くなっている気がする	668 (36.2)	584 (31.7)	269 (14.6)	142 (7.7)	59 (3.2)	123 (6.7)	1845 (100.0)
東日本大震災については話さないようにしている	847 (45.9)	483 (26.2)	258 (14.0)	93 (5.0)	40 (2.2)	124 (6.7)	1845 (100.0)

問22 東日本大震災直前のあなたの住所地をお答えください。

震災直前の住所(県)

岩手県	宮城県	福島県	その他	無回答	合計
378 (20.5)	619 (33.6)	820 (44.4)	6 (0.3)	22 (1.2)	1845 (100.0)

問23 東日本大震災が起こる前1か月くらいでは、あなたの健康状態はいかがでしたか。

よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答	合計
253 (13.7)	441 (23.9)	838 (45.4)	218 (11.8)	65 (3.5)	30 (1.6)	1845 (100.0)

問24 東日本大震災が起こる前1か月くらいでは、ふだんの生活はどの程度できましたか。

どこへでも楽に一人でも出かけれていた	楽ではなかったが、大体どこへでも一人でも出かけていた	家の中では、ほぼ不自由なく動き、となり近所には一人でかけていた	気が向いた時、庭先に出たり、家の中での簡単な仕事ならしていた	一日中ほとんど寝たきり、またはそれに近い状態であった	無回答	合計
643 (34.9)	584 (31.7)	264 (14.3)	226 (12.2)	91 (4.9)	37 (2.0)	1845 (100.0)

問25 東日本大震災発生前の1年くらいでは、心配ごとや困りごとがあったとき、次の人たちはどのくらい相談にのってくれましたか。

	かなり のってくれた	いくらか のってくれた	あまり/ほとんど のってくれな かった	該当者が いなかった	無回答	合計
配偶者/パート ナー	938 (50.8)	348 (18.9)	69 (3.7)	291 (15.8)	199 (10.8)	1845 (100.0)
配偶者/パート ナー以外の同 居家族	543 (29.4)	433 (23.5)	129 (7.0)	401 (21.7)	339 (18.4)	1845 (100.0)
別居の家族や 親族	497 (26.9)	589 (31.9)	240 (13.0)	188 (10.2)	331 (17.9)	1845 (100.0)
近所の人	103 (5.6)	412 (22.3)	428 (23.2)	502 (27.2)	400 (21.7)	1845 (100.0)
友人	204 (11.1)	536 (29.1)	293 (15.9)	423 (22.9)	389 (21.1)	1845 (100.0)

問26 東日本大震災発生前の1年くらいでは、日頃の生活でちょっとした手助けが必要であったとき、次の人たちはどのくらい手助けをしてくれましたか。

	かなり してくれた	いくらか してくれた	あまり/ほとんど してくれな かった	該当者が いなかった	無回答	合計
配偶者/パート ナー	953 (51.7)	306 (16.6)	75 (4.1)	283 (15.3)	228 (12.4)	1845 (100.0)
配偶者/パート ナー以外の同 居家族	578 (31.3)	391 (21.2)	120 (6.5)	404 (21.9)	352 (19.1)	1845 (100.0)
別居の家族や 親族	475 (25.7)	572 (31.0)	271 (14.7)	188 (10.2)	339 (18.4)	1845 (100.0)
近所の人	102 (5.5)	402 (21.8)	436 (23.6)	487 (26.4)	418 (22.7)	1845 (100.0)
友人	178 (9.6)	491 (26.6)	333 (18.0)	438 (23.7)	405 (22.0)	1845 (100.0)

問27 東日本大震災発生前の1年くらいでは、次の人たちは、あなたにいたりや思いやりをどのくらい示してくれましたか。

	かなり 示してくれた	いくらか 示してくれた	あまり/ほとんど 示してくれ なかった	該当者が いなかった	無回答	合計
配偶者/パート ナー	942 (51.1)	334 (18.1)	74 (4.0)	285 (15.4)	210 (11.4)	1845 (100.0)
配偶者/パート ナー以外の同 居家族	571 (30.9)	412 (22.3)	122 (6.6)	402 (21.8)	338 (18.3)	1845 (100.0)
別居の家族や 親族	498 (27.0)	608 (33.0)	246 (13.3)	172 (9.3)	321 (17.4)	1845 (100.0)
近所の人	110 (6.0)	446 (24.2)	429 (23.3)	465 (25.2)	395 (21.4)	1845 (100.0)
友人	204 (11.1)	533 (28.9)	315 (17.1)	410 (22.2)	383 (20.8)	1845 (100.0)

問28 東日本大震災直前の家族構成はいかがでしたか。

一人暮らし	2人	3人	4人	5人	6人	7人
167 (9.1)	637 (34.5)	415 (22.5)	220 (11.9)	158 (8.6)	86 (4.7)	53 (2.9)
8人	9人	10人	特定不可	無回答	合計	
19 (1.0)	3 (0.2)	1 (0.1)	51 (2.8)	35 (1.9)	1845 (100.0)	

付問 あなたと同居している家族の方はどなたですか。あなたからみた続柄でお答えください。

同居家族	選択	非選択	無回答	非該当	合計
配偶者(内縁関係も含む)	1231 (66.7)	359 (19.5)	53 (2.9)	202 (10.9)	1845 (100.0)
子ども	803 (43.5)	771 (41.8)	69 (3.7)	202 (10.9)	1845 (100.0)
子どもの配偶者	220 (11.9)	1354 (73.4)	69 (3.7)	202 (10.9)	1845 (100.0)
孫	259 (14.0)	1315 (71.3)	69 (3.7)	202 (10.9)	1845 (100.0)
孫の配偶者	14 (0.8)	1560 (84.6)	69 (3.7)	202 (10.9)	1845 (100.0)
親(義父母も含む)	274 (14.9)	1300 (70.5)	69 (3.7)	202 (10.9)	1845 (100.0)
祖父母	34 (1.8)	1540 (83.5)	69 (3.7)	202 (10.9)	1845 (100.0)
兄弟・姉妹	84 (4.6)	1490 (80.8)	69 (3.7)	202 (10.9)	1845 (100.0)
その他	30 (1.6)	1544 (83.7)	69 (3.7)	202 (10.9)	1845 (100.0)

問29 東日本大震災直前では、あなたは仕事をしていましたか。

働いていた(自営・パート含む)	休職中であつた	働いていなかった(学生・専業主婦・求職中含む)	特定不可	無回答	合計
500 (27.1)	37 (2.0)	1113 (60.3)	54 (2.9)	141 (7.6)	1845 (100.0)

震災前の職業

経営者・役員	常時雇用されている一般従業者	派遣社員	契約社員・嘱託	臨時雇用・パート・アルバイト	自営業主・自由業者	家族従業者	内職
85 (4.6)	150 (8.1)	3 (0.2)	39 (2.1)	81 (4.4)	155 (8.4)	34 (1.8)	7 (0.4)
無回答	非該当	合計					
37 (2.0)	1254 (68.0)	1845 (100.0)					

問30 東日本大震災直前の住まいは次のどれにあたりますか。

持ち家(一戸建て、分譲マンション)	借家・民間のアパート・マンション	公団・公営の賃貸アパート、住宅	下宿・間借り	仮設住宅	その他	無回答
1534 (83.1)	163 (8.8)	79 (4.3)	10 (0.5)	2 (0.1)	22 (1.2)	35 (1.9)
合計						
1845 (100.0)						

問31 東日本大震災前の1年間では、あなたお宅の収入は税込みでいくらくらいでしたか。

120万円未満	120~300万円未満	300~400万円未満	400~500万円未満	500~600万円未満	600~800万円未満	800~1,000万円未満
257 (13.9)	664 (36.0)	290 (15.7)	157 (8.5)	104 (5.6)	90 (4.9)	54 (2.9)
1,000万円以上	無回答	合計				
49 (2.7)	180 (9.8)	1845 (100.0)				

問32 東日本大震災前までの人生の中で、次のような経験をしたことがありますか。

震災以外の衝撃的出来事	選択	非選択	無回答	合計
地震や台風などの自然災害による被害を経験	751 (40.7)	342 (18.5)	752 (40.8)	1845 (100.0)
重傷の人や死亡者が出た交通事故や仕事上の事故に巻き込まれた	120 (6.5)	973 (52.7)	752 (40.8)	1845 (100.0)
殺人や重傷者が出た事件や事故を目撃した	44 (2.4)	1049 (56.9)	752 (40.8)	1845 (100.0)
親しい人(家族や友人など)の自殺や他殺による死	200 (10.8)	893 (48.4)	752 (40.8)	1845 (100.0)
身体的・性的虐待を受けた	22 (1.2)	1071 (58.0)	752 (40.8)	1845 (100.0)
その他、あなたやあなたの親しい人に死や重大なけがをもたらしかねない経験	251 (13.6)	842 (45.6)	752 (40.8)	1845 (100.0)

問33 東日本大震災前までの人生の中で、次のような症状を経験したことはありますか。

1) うつ的で気分が沈み、希望がわかないという状態が2週間以上続いたことで、日常生活に支障をきたしたり、医師に受診したことがありますか。

ある	ない	無回答	合計
237 (12.8)	1512 (82.0)	96 (5.2)	1845 (100.0)

2) 精神的にパニックに襲われたり、不安が継続したり、苦痛を感じたりする状態が4週間以上続いたことで、日常生活に支障を生じたり、医師に受診したことがありますか。

ある	ない	無回答	合計
201 (10.9)	1536 (83.3)	108 (5.9)	1845 (100.0)

◎東日本大震災の経験についてお伺いします。

問34 東日本大震災の時にはどれほどの恐怖を感じましたか。

非常に恐ろしかった	恐ろしかった	少し恐ろしかった	あまり恐ろしくなかった	平静であった	無回答	合計
902 (48.9)	567 (30.7)	225 (12.2)	48 (2.6)	63 (3.4)	40 (2.2)	1845 (100.0)

問35 あなたは東日本大震災が原因で外傷や火傷を受けませんでしたか。

入院するほどの外傷・火傷を受けた	入院するほどではなかったが、外傷・火傷を受けた	外傷・火傷を受けなかった	無回答	合計
13 (0.7)	45 (2.4)	1714 (92.9)	73 (4.0)	1845 (100.0)

問36 あなたは東日本大震災を経験して以降、大きな体の病気にかかりませんでしたか。

入院するほどの病気にかかった	入院はしなかったが、外来通院した	病院にはかかっていなかったが、体調がとても悪かった	病気にかからなかった	無回答	合計
299 (16.2)	240 (13.0)	218 (11.8)	973 (52.7)	115 (6.2)	1845 (100.0)

問37 あなたは東日本大震災が原因で身体に障害や大きな病気が残りませんでしたか。ただし、心の病は含みません。

ひどいのが残った	軽いのが残った	残らなかった	無回答	合計
73 (4.0)	195 (10.6)	1468 (79.6)	109 (5.9)	1845 (100.0)

問38 東日本大震災であなただの家はどうなりましたか。

全壊	半壊	一部損壊	被害は受けていない	無回答	合計
109 (5.9)	240 (13.0)	740 (40.1)	715 (38.8)	41 (2.2)	1845 (100.0)

問39 東日本大震災によって亡くなられた家族の方はいますか。

いた	いなかった	無回答	合計
59 (3.2)	1739 (94.3)	47 (2.5)	1845 (100.0)

問40 東日本大震災によって、重傷を負ったり、障がい者になった家族の方はいますか。別居している人も含みます。

いた	いなかった	無回答	合計
29 (1.6)	1766 (95.7)	50 (2.7)	1845 (100.0)

問41 東日本大震災の時、死亡したり、大けがをした人を目撃しましたか。

した	しなかった	無回答	合計
132 (7.2)	1661 (90.0)	52 (2.8)	1845 (100.0)

問42 東日本大震災の時、家族の安否に関する情報がなく、不安であったことはありませんでしたか。

あった	なかった	無回答	合計
801 (43.4)	982 (53.2)	62 (3.4)	1845 (100.0)

問43 東日本大震災発生後、避難しましたか。

避難した	避難しなかった	無回答	合計
663 (35.9)	1117 (60.5)	65 (3.5)	1845 (100.0)

付問1 最初に、避難した場所はどこでしたか。

避難所	車、ビニールハウス	他の家族・親戚・知人の家に同居	公営の空家の住宅に一時入居	賃貸アパートへの転居	ホテル宿泊	その他
229 (12.4)	59 (3.2)	184 (10.0)	2 (0.1)	11 (0.6)	24 (1.3)	126 (6.8)
無回答	非該当	合計				
28 (1.5)	1182 (64.1)	1845 (100.0)				

付問2 現在、避難前の住宅に戻ることができていますか。

戻ることができた	戻ることができないが、定住できる家に移動できた	定住できる住宅に移動できていない	無回答	非該当	合計
531 (28.8)	51 (2.8)	60 (3.3)	21 (1.1)	1182 (64.1)	1845 (100.0)

問44 東日本大震災発生後に被災者の救助などに携わりましたか。

携わった	携わらなかった	無回答	合計
161 (8.7)	1587 (86.0)	97 (5.3)	1845 (100.0)

問45 震災発生から1か月間では、東日本大震災のために透析を受けなかったことはありますか。

ない	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上
1249 (67.7)	263 (14.3)	113 (6.1)	63 (3.4)	17 (0.9)	9 (0.5)	31 (1.7)
無回答	非該当	合計				
96 (5.2)	4 (0.2)	1845 (100.0)				

問46 東日本大震災が原因で、医療機関を変えたということがありますか。

震災前後での変化	ある	ない	無回答	合計
医療機関を変えた	321 (17.4)	1400 (75.9)	124 (6.7)	1845 (100.0)
その他の医療機関を変えた	44 (2.4)	1677 (90.9)	124 (6.7)	1845 (100.0)
医療機関の変更はない	1371 (74.3)	350 (19.0)	124 (6.7)	1845 (100.0)

問47 東日本大震災の発生前と現在とを比較して、次のような変化がありましたか。

震災前後での変化	ある	ない	無回答	合計
家族の仲が悪くなったこと	63 (3.4)	1616 (87.6)	166 (9.0)	1845 (100.0)
地域の人や友人との交流が減ったこと	260 (14.1)	1415 (76.7)	170 (9.2)	1845 (100.0)
収入がかなり減少したこと	328 (17.8)	1320 (71.5)	197 (10.7)	1845 (100.0)
将来の蓄えをほとんど使ってしまったこと	300 (16.3)	1333 (72.2)	212 (11.5)	1845 (100.0)
職業を失って再就職できないこと	102 (5.5)	1435 (77.8)	308 (16.7)	1845 (100.0)
転職したが以前の仕事よりよくないこと	38 (2.1)	1433 (77.7)	374 (20.3)	1845 (100.0)
生活の再建のめどがたたないこと	145 (7.9)	1425 (77.2)	275 (14.9)	1845 (100.0)

◎基本的なことからについてお伺いします。

問48 年齢は何歳ですか。2012年12月31日時点(昨年12月末日)の年齢でお答えください。

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
4 (0.2)	26 (1.4)	97 (5.3)	352 (19.1)	649 (35.2)	488 (26.4)	197 (10.7)
無回答	合計					
32 (1.7)	1845 (100.0)					

問49 性別

男性	女性	無回答	合計
1025 (55.6)	789 (42.8)	31 (1.7)	1845 (100.0)

問50 あなたが最後にでられた学校は、次のどれにあたりますか。(中退は卒業としてお答えください)

中学校	高等学校	専門学校, 短期大学	大学・大学院	無回答	合計
493 (26.7)	859 (46.6)	231 (12.5)	203 (11.0)	59 (3.2)	1845 (100.0)

最後に、このアンケートにご記入いただいた方はどなたでしょうか。

患者さん本人が 記入した	患者さんから聞 いて、別の人が 代筆した	患者さんが回 答できないの で、別の人が 回答した	無回答	合計
1561 (84.6)	203 (11.0)	41 (2.2)	40 (2.2)	1845 (100.0)

東日本大震災の透析患者への
影響と震災の備えに関する調査
—岩手、宮城、福島に居住する患者調査から—

2013年12月発行

著者：透析医療研究会

発行人：一般財団法人 統計研究会

〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-16 日生ビル7F

TEL: 03-3591-8496 FAX: 03-3595-2220

ISBN978-4-88762-097-1 C3033

[禁無断転載]

